

年報 第48集

平成29年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

はじめに

平成29年度は「臨江閣」が大規模改修工事を完了し、8月にオープニングセレモニーが盛大に催されました。9月からは一般公開の再開並びに貸館利用を開始したほか、11月には将棋の第30期竜王戦・七番勝負第3局の舞台として、全国にその名を知らしめました。

遺跡発掘現場においては、現在では文化、あるいはもっと大きな括りで歴史と呼ばれる、今は跡形も無く土に埋もれてしまった遠い過去の暮らしを掘り返し、そのわずかな手がかりから歴史の空白を一片づつ埋めてゆくという地道な作業が本日も行われています。

一方、我々が住むまちには、今に伝承された文化、それは地域に根ざす民俗芸能や、技巧の粹を施した美術工芸品、建築物などがありますが、これら現代を生きる我々の心の充足にも大きく寄与している事象の保護発展に尽力している方々がいます。

前橋市は、これらの調査や保護、支援活動に加え、今後の当市の文化活動の拠点となる施設の整備を進めてきました。平成29年度は上野国府をはじめとする遺跡発掘調査が順調に推移したほか、総社古墳群の遠見山古墳での発掘調査も開始し、今後の活用を含めた検討を行う段階を迎えています。

市民参加・普及啓発という面では、「大室古墳の教室」が成果を上げています。地元の史跡を巡り、郷土の歴史を講聴するほか、瓦や馬具などの復元品制作も行っていますが、簡単な作業ではありません。古代の人々の技術や知識を、身をもってうかがい知ることができます。また、子供たちを対象にした夏休みの考古学教室も、楽しみながら古代の生活の一端を学ぶことで、本市の歴史への関心の喚起、ひいては地域への愛着形成に繋がると期待しているところです。

本市の文化財保護、調査活動が人々の生活を潤し、新しい芽を育んで行くことを願い、今後の施策を実施してまいりたいと思います。

平成30年 3月31日

前橋市教育委員会

教育長 塩崎 政江

目 次

はじめに

第1章 文化財調査委員による調査

1 樹木調査「沼の崖のザゼンソウ」	1
2 樹木調査「苗ヶ島町のソメイヨシノ」	1
3 建造物調査「飯土井公民館」	1

第2章 指定文化財

1 県指定文化財の新指定	2
--------------	---

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	3
2 整備事業	10
3 普及事業	13

第4章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業	23
2 市内遺跡発掘調査事業	52
3 遺跡台帳整備事業	52
4 埋蔵文化財資料整備事業	54
5 文化財資料管理	58
6 上野国府等保存整備事業	58

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

今年度は、以下2件の文化財調査委員による調査を実施した。

1 樹木調査

- (1) 日 時 平成29年6月8日(木)
- (2) 調査対象物件 ①沼の窪のザゼンソウ
②苗ヶ島町のソメイヨシノ
- (3) 調査者 大森委員、能登委員
- (4) 概要

① 沼の窪のザゼンソウは、27年度にイノシシ被害にあっており、その経過確認調査を毎年行っている。小規模なヌタ場は回復傾向にある。オタカラコウがザゼンソウの生育に支障を来たした場合、引き抜きではなく、葉の刈り取りなどで衰弱させ、ザゼンソウの侵入を促す必要がある等、指導を受けた。



② 苗ヶ島町のソメイヨシノは、樹齢120年といわれる記録が残っている。ソメイヨシノは園芸品種であり、寿命は100年程度である。本ソメイヨシノも寿命を考慮すると限界に近い。また、樹形の維持に必要な大枝を落としており、主幹目通りもソメイヨシノとして、特に大木とは言いがたいものであるとの見解が示された。



2 建造物調査

- (1) 日 時 平成29年11月21日(火)
- (2) 調査対象物件 飯土井公民館
- (3) 調査者 村田委員
- (4) 概要

来年度、地元自治会で補助金を活用しての飯土井公民館の建て替えを予定しており、県から建物の照会があったため、調査を行った。

調査の結果、本建造物は、江戸後期の唐草絵様によく見られる渦の巻きと若葉の意匠、柱間寸法や軒を船檣造とする構法等からみて、棟札に記された文政13年(1830)の建造年代は妥当と考えられる建物である。

また当該の建物は、寺院の宗教活動、庶民教育の場であった寺子屋、明治の廃仏毀釈、さらには明治期の学校教育等の実態を知る上で価値がある貴重な建物であることが確認された。



第2章 指定文化財

本年度は、新指定文化財として「山王庵寺出土塑像群 附 塑像群残欠一括3箱」が県の重要文化財に指定された。これにより、本市における県指定重要文化財等の総数は58件となった。

以下は新指定文化財の概要である。

山王庵寺出土塑像群 附 塑像群残欠一括3箱

(1) 由来及び沿革

山王庵寺は前橋市總社町に所在する古代の寺院跡であり、7世紀後半に建てられたと考えられている。地元の地名から、現在では「山王庵寺」と呼ばれているが、出土した瓦には「放光寺」と刻書されたものがあることから、国特別史跡山上碑や「上野国交替実錄帳（こうづけのくにこうたいじつろくちょう）」に出てくる放光寺であることが確実視されてきた。「上野国交替実錄帳」によれば、国分寺に準じる格式の高い定額寺（官寺に準じた特權を与えられた寺）であった。山王庵寺の主要部分は国指定史跡となっており、出土品のうち綠釉陶器（りょくゆうとうき）や銅鏡（どうわん）は国指定重要文化財である。

この山王庵寺出土塑像群は、平成9・11年度に前橋市教育委員会の発掘調査により発見されたものを中心としている。塑像群は、山王庵寺の回廊の南西に位置する埋納土坑からまとまって見つかっており、塑像が置かれていた塔が火災を受けたため、まとめて埋められたものと考えられている。

(2) 内容

塑像とは、粘土などの材料を盛りつけて像の姿を造り上げたものである。3世紀頃中央アジアで塑像が造られたのがその始まりとされ、日本では7世紀代に唐から伝えられ、造られ始めた。

前橋市教育委員会による発掘調査で、山王庵寺からは4,000点を超える塑像等の破片が出土しており、これらは塔本塑像（塔の初層に置かれた、釈迦にまつわる様々な場面を表している塑像群）であると考えられている。塑像の造りや文様から、作製時期は8世紀前半と考えられている。

山王庵寺の塑像群は、火を受けていたため破片ではあるが、ある程度の形が残っている状態で多量に出土した。塑像群の種類は、仏教尊像などの人物像や山岳・礎形等のほか、塔の壁体からなる。塑像や壁体の一部は、彩色の痕跡が確認できる。

(3) 種類と数量

本指定 塑像片	2, 313点
壁体片及び不明破片	1, 771点
(塑像片内の4点は表採品)	

附 塑像群残欠一括 3箱

(4) 指定理由

山王庵寺の塑像群は、法隆寺五重塔の塔本塑像に遜色ない優れた造形である。法隆寺の塑像のような畿内の作例に匹敵するような塑像が地方で造られたことを示す極めて重要な資料である。塑像群は破片ではあるものの、造形の水準は高く、またもありることから、指定するに十分な歴史的意義を持っている資料である。

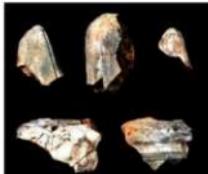
[指定基準]

群馬県指定重要文化財の指定基準第5号の(4)に該当する。

第1 群馬県指定重要文化財の指定基準

5 考古資料の部

(4) 官衙跡、寺院跡、墓、経塚等の出土品その他飛鳥、奈良時代以後の遺物で学術的価値の特に高いもの



山岳と礎形



人物頭部



神將像

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の2箇所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、職員が定期的に実施した。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、総社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ2回実施した。

(2) 国・県・市指定文化財管理

今年度、新たに指定・登録された文化財数を反映した平成30年3月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定名称	国	県	市	合計
重要文化財	5	40	141	186
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	18	58	244	320
登録有形文化財	24			24
登録有形民俗文化財	1			1
重要美術品	8			8

① 寄虫防除

市が管理する史跡5ヶ所において、樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除作業を職員が樹幹注入型殺虫剤を用いて実施した。

実施日 平成29年6月16日
平成29年6月22日

実施場所 ①天川二子山古墳 ②総社二子山古墳
③宝塔山古墳 ④蛇穴山古墳 ⑤大胡城址

実施樹木 90本

② スズメバチ駆除

二之宮町女堀及び臨江閣でスズメバチが発生したため、駆除を行った。

実施日 平成29年7月8日(女堀)
平成29年12月5日(臨江閣)

③ 史跡等の除草

市が管理する史跡等について、地元自治会、前橋市シルバー人材センター及び業者に委託して環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分(指定)	除草面積延べ(m ²)
1	前橋城車橋門跡	市	1,125
2	亀塚山古墳	市	7,452
3	金冠塚古墳	市	7,221
4	八幡山古墳	国	50,562
5	宝塔山古墳	国	3,306
6	蛇穴山古墳	国	600
7	蛇穴山古墳隣接地	国	1,962
8	総社二子山古墳隣接地		792
9	女堀(1)	国	85,992
10	不二山古墳	市	1,713
11	大日塚古墳	市	1,686
12	荒砥富士山古墳	市	4,050
13	大胡城跡	県	23,620
14	大胡城跡(急傾斜地)	県	5,000
15	堀越古墳	県	873
16	遠見山古墳	市	5,829
17	阿久沢家住宅	国	3,600
19	膳城跡(1)	県	3,171
20	日本間酒店	市	3,000
21	女堀(2)	国	5,666
22	今井神社古墳	市	4,624
23	天神山古墳	県	1,095
24	膳城跡(2)	県	14,820
合計			237,759

④史跡の樹木管理

- ・危険樹木の伐採（大胡城跡北側枯木3本・前二子古墳南側1本・亀塚山古墳3本）
- ・樹木剪定（天川二子山古墳西側（東電実施）・総社二子山古墳東側）
- ・樹木撤去（遠見山古墳南側）

⑤その他の環境整備

- ・ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業を活用し、大胡城跡で間伐12本、膳城跡で間伐10本を行った。

（3）文化財の保護

① 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更是、国指定が2件、県指定が3件、市指定が3件であった。

詳細は以下一覧表の通り。

現状変更詳細一覧

種別	指 定 名 称	内 容
特天	カモシカ	死亡（2件）
県天	時沢の夫婦マツ	クローン松増殖のための植生採取
県史	上泉郷蔵 附上泉古文書	郷蔵の周囲の樹木の剪定
県重	臨江閣本館	改修工事 (H28.3.29 ～H29.4.28)
市重	臨江閣別館	
市重	前橋藩酒井家前橋城 絵図附上野国絵図ほか関係資料	劣化箇所修復
市重	前橋領主松平大和守 家の甲冑	兜紐の挿げ替え
市史	遠見山古墳	範囲内容確認調査

② 防火査察及び文化財防火訓練

ア 防火査察

41件の文化財査察対象物に対して9班編成を組み、前橋市消防局（各消防署）及び東京電力㈱等と協力して、合同立入査察を実施する予定であったが、1班から9班のうち、3・4・6・7班が積雪のため検査中止となり、22件の査察となつた。

○平成30年1月23日(火)

『第3班東消防署：6施設』積雪のため中止

旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対（堀越町 金蔵院）、堀下の仏像群（堀越町）、大胡神社の算額（河原浜町 大胡神社）、柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台・他（柏倉町 諏訪神社）、木造十一面觀音立像（柏川町女渕 觀音堂）、狂歌合わせの額・他（市之関町 住吉神社）

『第4班東消防署：5施設』積雪のため中止

阿久沢家住宅（柏倉町）、込皆戸三番叟人形一括（前橋市柏川出土文化財管理センター）、近戸神社御輿・他（柏川町月田 近戸神社）、金剛寺木造十一面觀音坐像・他（苗ヶ島町 金剛寺）、三夜沢赤城神社本殿内宮殿（三夜沢町 赤城神社）

『第6班南消防署：3施設』積雪のため中止

円満寺薬師如来座像（後閑町 円満寺）、駒形町牛頭天王の獅子頭（駒形町 駒形神社）、旧アメリカンボード宣教師館（小屋原町 共愛学園）

『第7班南消防署：5施設』積雪のため中止

旧開根家住宅（大室公園）、二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納曾利面（二之宮町 二宮赤城神社）、無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面觀音立像（二之宮町 無量寿寺）、慈照院千手觀音坐像（二之宮町 慈照院）、産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地（下大屋町 産泰神社）

○平成30年1月24日(水)

『第1班中央消防署：5施設』

酒井家史料<129点>・前橋祇園祭礼絵巻<二巻>（市立図書館）、前橋藩主松平家奉納能装束一式（大手町三丁目 東照宮）、臨江閣本館、茶室、別館（大手町三丁目）、酒井重忠画像（大手町三丁目 源英寺）、梵鐘（千代田町三丁目 妙安寺）

『第2班中央消防署：6施設』

旧蚕糸試験場事務棟（敷島公園ばら園）、神明宮の甲冑・奈良三彩小壺（総合教育プラザ）、横室の歌舞伎衣装（総合教育プラザ）、東福寺鰐口（三河町一丁目 東福寺）、上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞（上泉町）、石造薬師三尊立像（亀泉町 宝禪寺如意寺）、八幡宮文書（一巻九通）伯牙彈琴鏡

『第8班北消防署：3施設』

日輪寺寛永の絵馬・十一面觀世音像（日輪寺町 日輪寺）、鉄造阿弥陀如来坐像（端氣町善勝寺）、前橋藩家老小河原左官の甲冑附旗差物（荒牧町）

《第9班北消防署：4施設》

珊瑚寺の板碑と多宝塔（富士見町石井 珊瑚寺）、萩林庵の阿弥陀像（富士見町原之郷）、原西の阿弥陀像（富士見町原之郷）、時沢の仁王と多宝塔（富士見町時沢）

○平成30年1月25日(木)

《第5班西消防署：4施設》

上野総社神社本殿・他（総社町一丁目 総社神社）、徳藏寺懸仏・麻木著色両界曼荼羅一対（元総社町 徳藏寺）、光嚴寺薬院門・打敷・油單並びに幡（総社町総社 光嚴寺）、大徳寺總門・多宝塔（小相木町 大徳寺）

イ 文化財防火訓練

大胡神社東側の雑木林から出火し、市指定重要文化財の算額が収蔵されている拝殿へ延焼する恐れがあるという状況設定のもと、文化財の搬出や延焼防止、火勢制圧を想定した演習により、中継送水・水幕ホース設定・放水訓練が行われた。

○平成30年1月28日(日)

午前10時00分から午前11時00分まで
会場：大胡神社 前橋市河原浜町615番地

〈参加機関〉

前橋市消防局（東消防署、中央消防署）、
前橋市消防団（第5分団）、大胡神社住職、
地区住民、前橋市文化財保護課



訓練の様子

③ 文化財パトロール

市内を10地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置し、指定文化財のパトロールを行った。月1度の報告により除草や修理の対応をした。第1回会議は平成29年4月17日に行い、平成29年1月22日開催の情報交換会では、遠見山古墳調査・総社歴史資料館の見学の見学を行った。



遠見山古墳調査見学

(4) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園ばら園内に移築し、昭和57年4月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。

開館日の管理は、前橋市シルバー人材センターに委託し、見学者の受け付け館内外の清掃を行っている。

このほかの管理業務として、消防設備保守点検、及び周辺清掃業務をそれぞれ専門業者に委託した。

建物内の4つの展示室（①開所当時の様子を示す資料、②はき立てから繭出荷までの養蚕具、③上州座練器をはじめとして製糸業に用いる用具器械、④機織り機や養蚕信仰の資料）において資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催に合わせて、富岡製糸場世界遺産伝道師協会等の協力を得て、座縫り体験・桑の木クラフト体験を数回行っているが、本年度は春のばら園まつりにおいては、繭クラフト体験を加えて実施した。

開館日は、4月～11月の土・日・祝日（ばら園まつり・バラフェスタ開催期間中は毎日）で本年度の来館者は5,145人であった。



座縫り体験



桑の木クラフト体験



説明員の会視察研修 〈佐野市郷土博物館
(田中正造ゆかりの博物館)

(5) 前橋市総社歴史資料館の管理・活用

前橋市総社歴史資料館は、開館2年目を迎えた。認知度もあがり、来館者数も順調に増えている。

今年度は、発掘速報展やミニ企画展も開催した。

資料館の見学の対応は、地元で組織されている説明員の会に委託を行っている。

毎年秋には、市内の小学4年生が天狗岩用水の現地見学に訪れている。「秋元氏と天狗岩用水」の展示を中心に解説を行い、昔の道具の体験の案内をしている。また、その他にも希望者には、団体や個人、学校・一般を問わず来館者の要望に応じて総社地区の古墳の説明や付近の史跡の案内にも応じている。

また、説明員の会には、近隣の史跡の清掃も依頼している。月3回、2人ずつ、年間36回程度。

開館日数は308日、来館者数は8,161人。

60の一般的な団体や個人、学校の社会科見学の対応を行い、そのうち学校の見学は、41校2,497人であった。

3月には説明員の研修会を実施した。

今回は、太田市・佐野市・栃木市の文化財や関連施設を視察した。

見学先：太田市 さざえ堂

佐野市 郷土博物館

渡良瀬遊水地（谷中村跡）

現地では、解説や説明を聞きながら見学することができたため、より効果的に見聞を広めることに繋がった。また、現地ガイド等の説明を聞くことにより、資料館での説明の方法や、今後の案内の参考となる実りの多い研修となった。

(6) 前橋市柏川歴史民俗資料館の管理・活用

前橋市柏川歴史民俗資料館は、大胡、宮城、柏川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。

今年度の年間開館日数は201日、入場者数合計は1,868人。

また、春季と秋季には、より多くの市民に開心を持っていただくことをねらい、それぞれ以下の通り企画展を開催した。

〈春季企画展〉

「櫛石を探る—赤城山南麓の祭祀遺跡—」

開催期間 平成29年4月29日(土)から
平成29年9月24日(日)まで

記念講演会

第1回 平成29年5月21日(日)

「櫛石の調査」

講師：井上 唯雄 氏

(市文化財保護調査委員会会長)

第2回 平成29年6月18日(日)

「神社祭祀と櫛石」

講師：神保 侑史 氏

(辛科教神社宮司・元群馬県埋蔵文化財
調査事業団事業局長)

第3回 平成29年7月23日(日)

「巨石祭祀と器物集積祭祀～櫛石と
金井東裏遺跡の祭祀の比較から～」

講師：杉山 秀宏 氏

(群馬県埋蔵文化財調査事業団
主任調査研究員)

〈秋季企画展〉

「前橋城絵図帳」刊行記念

前橋城絵図・上野国寛文国絵図を読む

開催期間 平成29年10月21日(土)から
平成30年 2月25日(日)まで

連続講座

第1回 平成29年10月22日(日)

「前橋城絵図について」

講師: 小島 純一

(市文化財保護課 専門員)

第2回 平成29年10月29日(日)

「前橋城の建物を復元する」

講師: 伊藤 隼 氏

(株式会社 石井設計)

第3回 平成29年11月19日(日)

「国絵図を読む」

講師: 青木 裕美 氏

(群馬県立歴史博物館)

第4回 平成29年12月10日(日)

「絵図から何を読み解くか」

講師: 関口 荘右 氏

(群馬県立文書館)

前橋城絵図帳平成29年度実施企画展

「前橋城絵図帳」刊行記念

前橋城絵図・上野国寛文国絵図を読む

開催期間 平成29年10月21日(土)から平成30年2月25日(日)まで

開催時間 午前10時から午後4時まで

休館日 年始(1月1日)・大晦日(12月31日)・祝日(1月29日から1月3日まで)

運営協力

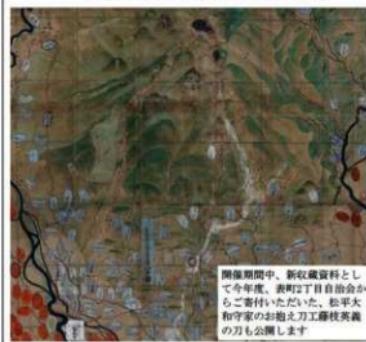
前橋市シルバーハウス、前橋市歴史民俗資料館、前橋市立図書館

10月22日 前橋城絵図について 小島純一(市文化)

10月29日 前橋城の建物を復元する 伊藤隼(石井設計)

11月19日 上野国絵図を読む 青木裕美(群馬県立歴史博物館)

12月10日 絵図から何を読み解くか 関口莊右(群馬県立文書館)



秋季企画展の告知ポスター

(7) 前橋市柏川出土文化財管理センターの管理・活用

施設は現在、赤城山南麓の旧町村の出土遺物の収蔵庫、並びに隣接する前橋市柏川歴史民俗資料館の収蔵庫として活用している。

施設内の機械警備、小荷物専用昇降機、浄化槽保守点検及び消防設備保守点検は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群の石室入口の鍵開閉や日常の保守・点検・清掃等については地元住民に管理業務を委託している。

県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

例年6月に開催している大室イベントでは、各種体験コーナーを設けているが、本年も座織り体験等で富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て開催することができた。

〈管理業務実施日〉

4月から11月まで: 月曜日を除く毎日
12月から3月まで: 土・日・祝日

〈点検場所〉

前二子古墳、中二子古墳、
後二子古墳及び小古墳

・前二子古墳及び後二子古墳については、石室の開閉、及び石室内の清掃を以下の時間に行う。

開錠 午前9時0分

施錠 午後4時0分

〈年末年始休業〉

平成29年12月29日(木)から
平成30年 1月 3日(火)まで

(9) 大室公園民家園の管理・活用

開園日の管理は前橋市シルバーハウスセンターに委託。平成29年度の開園日数は174日、来園者数は7,748人。

茅葺屋根保存維持のための専門業者による薰蒸を6回実施した。

6月の「大室イベント」のほか、「大室古墳の教室」各事業での会場や「大室古墳の語り部」ボランティアの活動拠点としても、例年同様に利用された。

〈開園日〉

4月から11月まで：木～日・祝日
12月から3月まで：土・日・祝日
午前9時～午後4時

〈年末年始休業〉

平成29年12月29日(木)から
平成30年 1月 3日(火)まで



大室イベントでの様子

(10) 臨江閣の管理・活用

平成28年度から実施していた保存整備工事が、7月に完了。9月からリニューアルオープンし、見学者受け入れの再開及び一般への貸館を利用を開始した。

また、各種報道機関からの取材や、テレビ番組等のロケ地としての利用も積極的に受け入れ、市内外へのアピールや知名度の向上に努めた。

開館日の管理は前橋市シルバー人材センターに委託。

平成29年9月1日以降、平成30年3月末現在の利用状況は以下の通り。

① 月別入館者数

月	開館日数	入館者数	備考
9	25	3,827	
10	27	5,652	
11	26	6,139	竜王戦
12	24	3,007	
1	24	2,876	
2	24	3,497	
3	27	7,243	ひな人形展示
合計	177	32,241	

② ジャンル別貸館利用割合

種 別	件 数	割 合
写真撮影	57	54%
研修セミナー等	19	18%
茶会、いけばな等	13	12%
行政関係	7	7%
イベント	6	6%
その他	4	4%
合 計	106	100%

③ 使用料収入額 1,154千円

④ 開館記念事業

9月1日(金)のリニューアルオープンに先立ち、8月19日(土)にオープニングセレモニーを実施した。門扉披露及び除幕式等記念式典のほか、群馬県文化財保護審議会副会長の村田敬一先生による記念講演会や大正浪漫コンサート、華道展、茶席、大正琴、日本舞踊などから成る「まえばし和の文化の集い」を開催した。

また、11月4日(土)から5日(日)にかけては、第30期竜王戦七番勝負の第3局の会場として使用され、渡辺明竜王と羽生善治棋聖(いづれも称号は対局当時)による熱戦が繰り広げられた。関連イベントとして大盤解説会やこども将棋大会等を開催し、市内外の将棋ファンが詰めかけた。



臨江閣外観（前橋公園側から）

⑤ その他

光のまちづくり推進プロジェクト（主催：前橋・光のまちづくり連絡協議会、事務局：未来の芽創造課）によるライトアップが、8月11日(金)から開始された。別館が完成した明治43年頃の流行色を基調としたもので、当初は平成30年2月末までの実施予定であったが、好評を受け期間を延長し、平成30年3月末現在も継続実施されている。

また、2月11日(日)から3月18日(日)に

かけては、本館1階でひな人形の展示を行った。市民から寄贈されたもののうち、江戸末期～昭和初期に製作された12点を展示了。



ひな人形展示の様子

(11) 阿久沢家住宅の管理・活用

開園日の管理については前橋市シルバーハウスセンターに委託。平成29年度の開園日数は179日。来園者数は1,846人。また、茅葺屋根等の保存維持のため、専門業者による薰蒸を6回実施し、適切な維持管理に努めた。

赤城山ろく里山学校事業の会場として地元の子どもたちの学習の場となったほか、平成28年度から実施していた駐車場の整備が完了した。また、11月に開催されたスローシティフェアでは、サテライト会場として活用された。

〈開園日〉

4月から11月まで：木～日・祝日
12月から3月まで：土・日・祝日
午前9時～午後4時

〈年末年始休業〉

平成29年12月28日(木)から
平成30年1月4日(木)まで



阿久沢家住宅外観

(12) 旧本間酒造の管理・活用

本施設はこれまで総社地区の歴史資料館として活用されていたが、総社資料館は平成28年度に新館へ移転したため、現在は今後の利活用に向けて、地元住民等と協議を重ねている状況である。

適切な維持管理のため、清掃や障子の張替え、畳の修復及び樹木の剪定のほか、消防設備の改修工事等を行った。

4月25日 第3回利活用にかかる意見交換会開催

5月 母屋1階壁修復業務実施

1階和室、トイレ清掃業務実施

6月 ホンダ自動火災報知受信機設置工事

ホンダ電源設置工事

7月 母屋1階障子張替え業務実施

2月6日 第3回利活用にかかる意見交換会開催

3月 敷地北側樹木剪定業務実施

意見交換会出席者：

前橋市議会議員（総社地区）・

総社地区自治会連合会・総社町栗島自治会長・

総社地区生涯学習奨励員連絡協議会・

総社歴史資料館説明員の会・

総社地区民生委員児童委員協議会・

総社地区老人クラブ連合会・

総社地区食生活改善推進員会

(13) 刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

今年度の製作承認申請はなし。本市に寄贈された刀剣を良好な状態で保存するため、毎年実施している専門的な技術者による手入れを、今年度は11月と2月の2回実施した。対象刀剣類は7種54口。

2月の手入れの際、刀1口に研ぎを必要とする汚損が見受けられたため、30年度内に実施予定。

また、6月1日に寄附を受けた刀「藤枝太郎英義作」については、刀身に鏽が見受けられたため研ぎを行い、適切な保管のため白鞘とつなぎを作成した。



手入れ作業の様子

市有刀剣類種類別所有数

種 別	口 数
太刀	3
刀	13
脇差	18
短刀	7
槍	5
薙刀	1
小柄・小刀	7
合計	53

工事費内訳

内 容	金 額
建築工事	455,986,800
電気設備工事	27,378,000
機械設備工事	38,855,160
本館空調設備設置工事	13,284,000
物置新築工事	5,508,000
門扉設置工事	5,076,000
調査記録業務	34,560,000
合計	580,647,960

2 整備事業

(1) 臨江閣整備

○ 前橋市臨江閣整備委員会

臨江閣を末長く保存整備し、積極的な利活用を図っていかなければならない。そのため、本市を代表する近代和風建造物である臨江閣の整備について、文化財保護、建造物調査、整備工事等の専門的な見地から検討及び協議を行った。

第1回前橋市臨江閣整備委員会

ア 開催日及び会場

平成30年1月26日（金）

臨江閣別館1階西洋間

イ 出席者

（委員）村田委員長、内田委員、清水委員
（調査業者）景観建築研究機構羽鳥理事長
ほか担当者

（教育委員会）塩崎教育長、橋本教育次長
（事務局）文化財保護課田中課長、登山係長、小島専門員、吉田副主幹、大野副主幹

ウ 内容

・ 協議

（1）臨江閣保存整備事業報告書について

○ 臨江閣保存整備事業建築工事ほか（債務負担行為）

平成28年度より2カ年度計画で実施した、臨江閣の大規模な保存整備工事が完了した。工事内容は、別館の屋根葺替、基礎補強、下屋補修、建具補修、漆喰壁補修 等大規模改造及び耐震補強と本館別館の空調設備設置、物置新築、門扉設置等。



臨江閣別館 外観



臨江閣別館 2階大広間

（2）阿久沢家住宅整備事業

平成28年度からの継続事業として、本住宅東側の県道大胡・赤城線沿いの場所に、大型車が駐車可能な駐車場および県道から本住宅への進入路の整備を行った。上半期に用地取得・実施設計・既存建物の解体、樹木の伐採を行い、下半期を中心にして造成・舗装工事・法面工事等を行い、今年度末より供用を開始した。駐車スペースの面積は約1,700m²である。また、平成29年11月に開催したスローシティフェアの際には、本住宅がサテライト会場

となったため、シャトルバスの乗降場所等として一時的に利用した。平成30年度以降、現在群馬県から占用中の県道敷地の取得が必要となる。



整備された駐車場



進入路

(3) 岩神の飛石整備事業

平成25年度からの継続事業。今年度は、岩神の飛石のガイドマップ作成を実施。小学生が家族と岩神の飛石のルーツを実際に回って見学できるモデルコースを作成した。現地を見学し体感できることを念頭に入れた。地図や用語集、ワークシートを活用し、発展的に学習できる物とした。

【事業の概要】

事業主体	前橋市
事業名	天然記念物岩神の飛石ガイドマップ作成
事業費	584,000円

(4) 史跡女塙保存活用計画策定事業

女塙は、赤城山南麓の裾野にあたる前橋市上泉町から伊勢崎市田部井町(旧佐波郡東村西国定)にかけての全長約13kmに及ぶ長大な農業用水路遺構で、本市内では5地区6地点が史跡指定されている。史跡指定後は順次史跡の公有地化を進め、史跡の保存施設として各地点に標柱や説明版を設置している。また、二之宮地区では環境整備事業を実施し、史跡の環境が大きく改善している。

しかし、土壌状に残る堀の掘削排土や堀斜面の崩落がたびたび起こるなど、史跡の保存に関する指針

の策定が急務となっている。また、史跡の見学や学習活動等活用に向けた指針が策定されていない。このため史跡の適切な保存と活用についての基本方針となる保存活用計画の策定を今年度より行い、平成30年度に策定予定である。

9月1日(金)に「史跡女塙整備検討委員会」を立ち上げ、第1回委員会を開催した。委員会からの指導を受け、今年度は現況図平面図を作成し、昨年度市単事業として図化した箇所の続きから、取水口推定地までの図化を行った。また、計画案の作成を行った。



二之宮地区峰下地点現況

(5) 総社古墳群範囲内容確認調査事業

総社古墳群は、榛名山から東南方向に広がる裾野の末端に位置し、現利根川の西岸に南北約4kmに分布する古墳群で、5世紀後半から7世紀後半にかけて連綿と築かれた。未指定の愛宕山古墳を含めて順次公有化を進め、除草や清掃等の日常管理を行っている。また、標柱や説明版を設置して普及啓発活動を行っている。

総社古墳群については、随時範囲内容の確認調査を行っているものの、その様相はいまだ明らかでなく、史跡周辺での宅地開発も進んでおり、史跡の適切な保存にも支障が生じている。このため、今年度より当面5ヵ年計画で範囲内容確認調査を行うこととした。

8月31日(木)に「総社古墳群調査検討委員会」を立ち上げ、第1回委員会を開催した。委員会からの指導を受け、今年度は周辺開発のおそれがある市史跡遠見山古墳について、前方部・後円部の周堀部や、前方部墳丘等4箇所にトレンチを設定し、計約200m²の調査を行った。調査の結果、これまで推定されていたとおり、墳丘全長は80m以上で、周堀を含めると100m以上の規模が想定される。

前方部墳丘で確認された上段の葺石は、左右で

積み方や高さに違いが見られ、井出二子山古墳などで確認されている葺石施工の単位を確認することができた。そして葺石前面では、高坏を使った祭祀跡が確認された。次年度の調査によつて、正確な墳丘規模や形状の把握が可能となると考えられる。



T2 前方部墳丘葺石



T1 周囲

(6) 指定文化財説明板の整備

説明板・標柱の新設及び書替を行つた。

- ・指定文化財説明板新設 2 箇所 三夜沢のブナ・大林縄文住居跡遺跡

- ・国登録有形文化財説明板新設 1 箇所 旧大竹酒造煉瓦蔵

・説明板書替

- ・全面張替 9 箇所 岩神の飛石・孝顕寺の文化財・徳藏寺の文化財・二宮赤城神社の文化財・女堀（前工団を除く 5 箇所）

- ・部分張替 5 箇所 酒井重忠画像・臨江閣本館・臨江閣別館・春日神社・龍性寺の石幢・木造十一面觀音立像



T2 葺石前面祭祀跡

3 普及事業

(1) 大室古墳群公開イベント 2017

本イベントは、国指定史跡を擁する大室古墳群を広く普及啓発することを目的として、平成17年度から毎年開催している。今回で13回目。

① イベント名称

「古墳・体験☆大室古墳イベント 2017」

② 日時：平成29年6月11日（日）

午前10時～午後3時

③ 会場：前橋市西大室町2545 他

大室公園内

④ 内容：

〈古墳見学会〉

市民ボランティア解説員「大室古墳（つか）の語り部」による古墳案内

〈体験イベント〉

勾玉づくり、火おこし、土偶づくり、パンづくり、お面づくり、座繩り、桑の木クラフト、繭クラフト、古代衣裳

〈古墳めぐりスタンプラリー〉

公園内の5か所をめぐる。全てのスタンプを集めた参加者には、景品としてオリジナル缶バッジを進呈。

⑤ 参加者：延べ3, 270名



当日の様子

(2) 大室古墳群市民ボランティア解説員（大室古墳の語り部）の活動

市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し発足し、12年が経過した。

現在活動中の市民ボランティア解説員は10名。ほとんどが地元在住で、地域にまつわるエピソードなども盛り込みながら案内・解説を行っている。春から秋にかけての定例説明会のほか、団体や個人から見学依頼を受けて、案内を行うこともある。定例説明会については「広報まえばし」や市ホームページでの広報も行い、市民に活動をアピールしている。

大室古墳群公開イベントや「大室古墳の教室」への協力など、幅広く活動しているほか、野外研修として市外の史跡や解説団体（施設）を見学し、資質の向上に努めている。

また、年度末には総会を開催し、平成29年度の活動の総括と、来年度へ向けての活動計画を検討した。

① 定例活動（古墳案内等）

5～11月の、主に第1土曜日に開催。

9時30分から11時頃まで受付し、希望者が集まり次第、随時案内。民家園を集合・出発点として案内しており、1周に要する時間は概ね1時間程度。人数に応じてグループ分けするなど、円滑な見学ができるよう配慮している。

見学者 計 77名

② 学校・一般団体等の案内

随時受付。10団体へ実施。

見学者 計 319名

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

本年度は、二宮赤城神社、月田近戸神社、三夜沢赤城神社を訪れ、赤城山信仰や地域の祭祀にまつわる歴史等について理解を深めた。



二宮赤城神社

(3) 第45回前橋市郷土芸能大会

毎年開催している郷土芸能の公演。市内から5つの団体と、近隣市町村から招待した1団体に出場いただき、計6団体で公演を行った。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっているが、今回は高崎市より「倉賀野神社祭祀舞保存会」の皆様に出演いただいた。

恒例となっている抽選会も実施。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで場内の活気を維持するねらいで実施している。市内19の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。

マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行なった。延べ570名入場。

① 日時 平成29年11月18日(土)

午後0時～午後4時

② 会場 昌賢学園まえばしホール

(前橋市民文化会館) 小ホール

③ 出演団体一覧

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
江田鏡神社の獅子舞	江田町獅子舞保存会	江田町
植野稻荷神社太々神楽	植野稻荷神社太々神楽保存会	植野
住吉ばやし	住吉町一丁目おはやし保存会	住吉町一丁目
倉賀野神社祭祀舞	倉賀野神社祭祀舞保存会	高崎市
裸みこし	南町二丁目自治会・水神社氏子会	南町二丁目
前橋鳶木遣り・纏振り	前橋鳶木伝統文化保存会「華粹会」	東片貝町



江田鏡神社の獅子舞

(4) 前橋・高崎連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として毎年開催している文化財展「東国千年の都」は、本年度で第11回目となった。

① 展示テーマ

東国千年の都

「古代上野(こうづけ)の記憶—前橋・高崎の寺院と役所」

② 期日・会場

・前橋会場 平成30年1月6日～16日
前橋プラザ元気21 1階にぎわいホール

・高崎会場 平成30年1月20日～29日
高崎シティギャラリー 2階 第6展示室

③ 開催結果

来場者数 3,799人

(うち前橋会場の来場者数 2,676人)



前橋会場の様子

(5) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始した。

平成29年度は、第1回目は前橋城会団帳発刊記念として「前橋城をあるく」として前橋城に隣接する地を歩いてめぐった。第2回目は「赤城山南麓の古墳をめぐる」として開催した。

〈第1回目〉

「前橋城をあるく」

日 時 12月3日(日)

午前9時～午後1時

案 内 文化財保護課 専門員 小島 純一

参加者 28名(欠席者2名)

コース

高浜公園→虎姫観音堂→長壁神社→清光寺
→龍海院→冠木門跡→大手門跡→坪呂岩門跡
→北曲輪町→ギリシャ正教会→柏木門跡
→柳原門跡→臨江閣→安井と左衛門功績碑
→東照宮→前橋城碑→車橋門跡



〈第2回目〉

「赤城山南麓の古墳をめぐる」

日 時 3月18日（日）

午前9時～午後0時45分

案 内 文化財保護課 主任 阿久澤 智和
参加者 23名

コース 正円寺古墳→堀越古墳→横室古墳公園
→九十九山古墳



② 出張授業・出前講座

出張授業「おもしろ文化財教室」

「おもしろ文化財教室」は、小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校や教育施設へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感や達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、小学校のみであったが、13校、906名を指導した。

出張授業実施概要一覧

実施日	学校名	学年	実施内容（実施場所）
4/24	桃井小	6年	古墳解説（総社古墳群）
5/19	元総社	南小6年	古墳解説（大室古墳群）
6/13	桃井小	6年	勾玉づくり
6/28・29	荒牧	小5年	勾玉づくり
7/19	岩神	小6年	縄文土器つくり
10/13	桃源	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
10/27	東	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
1/27	大胡	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
2/7	大胡東	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
2/8	柏川	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
2/9	月田	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
2/14	滝窪	小3年	昔の道具・くらし (柏川歴史民俗資料館)
2/21	城南	小3年	郷土芸能（八幡宮おはやし・水神宮裸みこし）

出前講座（生涯学習課事業）

今年度の実施状況は以下の通り。

- i. 「前橋市の文化財行政」 … 1団体
- ii. 「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」 … なし
- iii. 「古代の東国に咲いた華 山王庵寺」 … なし
- iv. 「解明！古代前橋の中心「推定上野国府跡」 … 2団体

なお、その他「公民館連携事業」に関連するものとして、「のびゆくこどもつどい」や地区の文化祭、また、児童文化センターとの連携として講師派遣依頼が7件あり実施した。

③ 職場体験学習

今年度は、3件の依頼があった。

中学校1校、高校2校の依頼を受け入れた。実施概要は以下の通り。

○7/24・25・26

群馬県立前橋東高等学校

第2学年 1名

○9/5・6・7

桂萱中学校 第2学年 3名

○10/24・25・26・27

群馬県立前橋商業高等学校

第1学年 4名

④ 臨江閣ボランティアガイド講習会

臨江閣のボランティアガイドを養成するため、講習会を開催した。受講人数は15名。

〈第1回〉

「臨江閣について（総論）」

講師 小島 純一（文化財保護課）

日時 2月19日（月）

10時～12時・19時～21時

〈第2回〉

「ボランティアガイドの心得」

講師 尾内 勝子 氏、奥田 喜代枝氏
(市観光ボランティア会)

日時 2月26日（月）

10時～12時・19時～21時

〈第3回〉

「臨江閣について（特論）」

講師 小島 純一（文化財保護課）

日時 3月5日（月）

10時～12時・19時～21時



講習会の様子

⑤ 臨江閣小室翠雲作 赤城山水図・妙義山水図レプリカ完成記念講演会

「赤城山水図」及び「妙義山水図」は、明治43（1910）年に創建された臨江閣別館のために描かれたもの。東日本鉄道文化事業財団の補助を受けて実施していたレプリカ作成が完了し、これを記念して講演会を開催した。

日時 3月4日（日）

午後1時30分から午後3時

内容

①「臨江閣と小室翠雲」

講師 辻 瑞生 氏（アーツ前橋）

②「臨江閣の歴史」

講師 小島 純一（文化財保護課）



講演会の様子



完成したレプリカ

⑥ 文化財資料の貸出

資料提供依頼による主な写真資料等の貸し出し
は以下のとおり。

貸し出し資料	貸し出し先
愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳、大室古墳群の各墳丘及び石室、大室はにわ館、総社歴史資料館の外観及び内観（画像データ）	（公財）前橋觀光コンベンション協会
上泉信綱銅像 (画像データ)	㈱ベストセラーズ
松平直矩肖像画 (画像データ)	テレビ朝日映像㈱
片貝の祇園囃子、青柳の祇園、六供お囃子、若一囃子、駒形町上町の祇園 愛宕神社祇園囃子 (映像データ・音源)	群馬大学教育学部附属小学校
総社歴史資料館外観 (画像データ)	朝日印刷工業㈱
酒井重忠肖像画 前橋城天守閣推定復元図 (画像データ)	㈱石井アーバンデザインリサーチ
臨江閣全景、外観、室内等 (画像データ)	前橋市文化協会、日本工業経済新聞社 前橋支局、平方木材 ㈱他
石室に副葬された土器（「新版前橋市の文化財」P23） (画像データ)	株式会社 中広
天狗岩用水開削ジオラマ (画像データ)	天狗岩堰土地改良区
総社神社太々神楽奉納 (写真データ)	（公財）モラロジー研究所出版部

⑥ 文化財調査事業

① 岩神の堤遺構発掘調査

【調査主旨】

江戸後期に安井与左衛門により構築された可能性がある「岩神の堤」と言われている堤防の構造確認を行い、近代前橋の構築に重要な役割を果たした遺構の姿を明らかにするため発掘調査を行った。

【所在地】

前橋市岩神町地内 ほか
※グリーンドーム南側

【物件所有者】 前橋市

【調査委託先】 技研コンサル株式会社

【委託調査期間】

平成30年2月26日（月）から平成30年3月27日（火）

② 前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

【調査概要】

前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献を調査し、市域における蚕糸業の重要性を再評価するに実施する調査事業である。

今年度は、5ヵ年計画の4年次として「塩原家文書の目録作り」を中心に行った。

また、前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物群の予備調査の準備を始めた。

蚕糸業に係る調査委員文書部会（石井禪間・西川委員・岡田委員・宮崎委員）による文書調査を実施した。

【構成員】

- 石井寛治顧問（東大名誉教授）
- 大野敏委員（横浜国立大学教授）
- 岡田昭二委員（前橋市文化財調査委員）
- 西川武臣委員（横浜開港資料館館長）
- 宮崎俊弥委員（元前橋国際大学教授）
- 村田敬一委員（県文化財保護審議会副会長）

(7) 平成29年度大室古墳の教室事業

1 事業名称

地域の特色ある埋蔵文化財活用事業
「大室古墳の教室」

2 目 的

大室古墳群史跡整備事業は古墳の整備は完成したが、当初計画された資料館の建設は実現していない。そこで「大室古墳の教室」で体験学習や考古学講座を開講し、展示場を開設し、市内の埋蔵文化財の活用や本市の古代文化を紹介するとともに郷土愛を育むことを目的とする。

3 事業費

2,880,000円（50%国庫補助対象）

4 開催した普及事業

(1) 小学生夏休み森の考古学教室

期間：平成29年7月27日（木）から8月25日（金）までの毎週木・金曜日

時間：午前9時から午前12時まで

講師：文化財保護課職員

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

第1回 「はにわ・どぐうをつくろう1

期日：平成29年7月27日（木）17名

第2回 「はにわ・どぐうをつくろう2

期日：平成29年7月28日（金）8名

第3回 「金属を溶かしてかがみをつくろう1

期日：平成29年8月3日（木）16名

第4回 「金属を溶かしてかがみをつくろう2

期日：平成29年8月4日（金）22名



図1 小学生夏休み森の考古学教室・続つくり

第5回 「まがたまをつくろう1

期日：平成29年8月10日（木）23名

第6回 「まがたまをつくろう2

期日：平成29年8月11日（金）17名

第7回 「プラ板をつくろう1

期日：平成29年8月24日（木）9名

第8回 「プラ板をつくろう2

期日：平成29年8月25日（金）10名

○小学生作成の埴輪と土偶の焼成

平成29年8月17日（木）一心窯の穴窯焼成

平成29年8月22日（火）一心窯の窯出し

○作品引渡

平成29年8月24日（木）から25日（金）まで

（2）考古学講座 2017・赤城と榛名山麓の古代を学ぶ

期間：8月19日（土）から10月7日（土）までの土曜日

時間：午前9時半から午前11時半まで

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

第1回 「石刃技術の交差点－堀越甲真木B遺跡のあり方から」

講師：諸星 良一氏（株式会社東京航業研究所）

期日：平成29年8月19日、参加者：54名

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

第2回 「群馬と埼玉に分布する古墳時代の杯形土



図2 考古学講座 2017「赤城と榛名山の古代を学ぶ」

器の謎

講師：山本 良太氏（坂戸市教育委員会）

期日：平成29年8月26日、参加者：64名

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

第3回 「総社二子山古墳の大刀をめぐって」

講師：徳江 秀夫氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）

期日：平成29年9月2日、参加者：64名

会場：大室公園民家園主屋

第4回 「渤海から上野国府に渡った帶金具」

講師：田中 広明氏（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

期日：平成29年9月16日、参加者：66名

第5回 「群馬大学附属中学校の地下に眠る縄文晩

期 西新井遺跡」

講師：設楽 博己氏（東京大学大学院教授）

期日：平成 29 年 10 月 7 日、参加者：67 名

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

番外編 「榛名山東南麓の古墳めぐりバスツアー」

講師：深澤 敦仁氏（群馬県立歴史博物館）

期日：平成 29 年 9 月 8 日（金）定員：22 名

会場：總社古墳群・保渡田古墳群ほか



図3 榛名山東南麓の古墳めぐりバスツアーア

（3）匠の教室

第1回 山王廃寺の瓦をつくる

講師：石井 政幸氏（一心窯主宰）

講師：永井 智教氏（コクドリサーチ）

期間：平成 29 年 6 月 24 日（土）から
7 月 2 日（日）まで

時間：午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：20 名 延べ人数：93 名
会場：大室民家園主屋・離れ



図4 匠の教室・山王廃寺の瓦をつくる

第2回 上西原遺跡の瓦塔をつくる

講師：石井 政幸氏（一心窯主宰）

講師：坂田 敏行氏（北本市教育委員会）

期間：平成 29 年 9 月 30 日（土）から
10 月 10 日（火）まで

時間：午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：16 名 延べ人数：129 名

会場：大室民家園主屋・離れ



図5 匠の教室・上西原遺跡の瓦塔をつくる

第3回 前二子古墳の剣菱形杏葉をつくる

講師：杉山 秀宏氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）

日時：平成 29 年 11 月 24 日（金）

時間：午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：11 名

会場：前橋市総社歴史資料館体験学習室

第4回 山王廃寺の古代文様タイルをつくる

講師：中島 侑子氏（タイルアート研究家）

期間：平成 29 年 12 月 2 日（土）・3 日（日）

時間：午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：22 名 延べ人数：28 名

会場：前橋市総社歴史資料館体験学習室



図6 匠の教室・山王廃寺の古代文様タイルをつくる

(4) 制作品完成記念考古学講演会

日時：平成 30 年 2 月 3 日（土）

午後 2 時から午後 4 時まで

演題：ユネスコ「世界の記憶」上野三碑

『山上碑と山王廃寺』



図 7 制作品完成記念考古学講演会・前澤和之氏

講師：前澤和之氏（上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会委員）

会場：前橋市総合福祉会館多目的ホール

参加者：155 名

(5) 大室はにわ館の展示

開設年月日：平成 26 年 11 月 3 日

会場：西大室町 2510 大室民家園土蔵

面積：1 階 24 m²・2 階 24 m² 計 48 m²

開館：4 月から 12 月まで

木曜日から日曜日・祝日

1 月から 3 月まで

土・日曜日・祝日、年末年始は休館

時間：午前 9 時から午後 4 時まで

展示資料：

①大室古墳群・内堀遺跡群出土品。旧石器・縄文・古墳時代の遺物・埴輪など

②前二子古墳石室復元市民プロジェクトの市民ボランティア制作品。

埴輪・馬具・玉・鏡・須恵器・冠など

③韓国慶州民俗村新羅窯の新羅焼。高杯・壺・装飾土器など。

④東京福祉大学柴田研究室制作学習教材。

「3D 映像でみる大室古墳群」

⑥お面をつくる・土偶をつくる・縄文文様体験しようコーナー

⑦大室古墳群模型

⑧入館者数：平成 29 年度 8000 人

(6) 制作瓦と瓦塔の展示

展示日時 平成 30 年 1 月 5 日（月）

瓦塔 A…総社歴史資料館

瓦塔 B…柏川歴史民俗資料館

瓦塔 C…大室公園民家園母屋床の間

瓦塔 D…大室公園民家園はにわ館

瓦塔 E…文化財保護課

瓦塔 F…文化財保護課

山王廃寺瓦…総社歴史資料館（軒平瓦 6 枚、平瓦 24 枚、軒丸瓦 5 枚、丸瓦 10 枚）

(7) ボランティア活動

第 1 回 古墳の除草・藤棚整備

期日：平成 29 年 9 月 1 日（金）参加者：8 名

会場：小二子古墳除草、大室こふんの藤棚整備

第 2 回 匠の教室・瓦塔つくり会場準備

期日：平成 29 年 9 月 29 日（金）

会場：民家園主屋・離れ 参加者：4 名

第 3 回 瓦桶包

会場：大室民家園

日時：平成 29 年 10 月 27 日（金）

午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：8 名

第 4 回 瓦を窯に詰める

指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成 29 年 11 月 9 日（木）

午前 9 時から午後 4 時まで

参加者：11 名

第 5 回 瓦窯焚き

指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成 29 年 11 月 10 日（金）～11 月

11 日（土）午前 9 時から翌日の午後 1 時まで

参加者：11 名



第6回 瓦塔梱包

会場：大室民家園

日時：平成29年11月17日（金）

午前9時から午後2時まで

参加者：7名

第7回 瓦窯出し

指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成29年11月21日（火）

午前9時から午後3時まで

参加者：12名

第8回 瓦塔窯詰め

指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成29年11月28日（火）

午前11時から午後3時まで

参加者：11名

第9回 瓦塔窯焚き

指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成29年11月30日（火）

午前11時から午後3時まで

参加者：11名

第10回 瓦塔窯出し



指導：石井 政幸氏（一心窯主宰）

会場：鼻毛石町一心窯

日時：平成29年12月10日（日）

午前9時から午後3時まで

参加者：10名

第11回 考古学講演会準備・撤去

期日：平成29年2月3日（土）

会場：吉町総合福祉会館 参加者：6名

第12回 藤棚の剪定

期日：平成29年3月16日（金）

会場：大室公園こふんの藤棚、参加者：8名

(8) 印刷物の刊行

①赤城山南麓の旧石器パンフ A4 判 16 頁 2000 部

②底の尖った土器パンフ A4 判 16 頁 2000 部

③朝倉・広瀬古墳群パンフ A4 判 16 頁 2000 部

④大室古墳群パンフ A4 判 16 頁 4000 部

⑤総社古墳群パンフ A4 判 16 頁 2000 部

⑥赤城山南麓の古墳パンフ A4 判 16 頁 2000 部

⑦榛名山南東麓の古墳パンフ A4 判 16 頁 2000 部

⑧山王廃寺跡パンフ A4 判 16 頁 2000 部



図10 完成した瓦塔・6基

⑨史跡女塙パンフ A4 判 16 頁 2000 部

⑩「考古学講演会・講座の記録3」A4 判 144 頁 400 部

⑪「考古学講演会・講座の記録4」A4 判 144 頁 400 部

(8) 里山学校

平成29年度の教育委員会重点事業の1つである赤城山ろく里山学校（宮城地区）において、国指定重要文化財阿久沢家住宅を活用し、昔の暮らしを宮城小学校の児童を対象とし、体験学習を実施した。子ども達が地域の自然や文化を感じられるよう、半日体験の4回を企画した。

第1回

開催日時

平成29年7月2日（日）10:00～12:00

参加人数 17名

活動内容

- ・オオムラサキの生態学習と観察、放蝶
- ・じゃがいも掘り体験と試食



オオムラサキを間近で観察



紙玉鉄砲を使って的当て遊び

第4回

開催日時

平成29年12月9日（土）9:30～12:00

参加人数 14名

活動内容

- ・なわない（しめなわ作り）体験
- ・石焼いもの試食



オオムラサキのメス（左）とオス



なわない（しめなわ作り）体験

第2回

平成29年8月8日（火）開催予定で準備を進めたが、台風5号の接近に伴う荒天が予想されたため中止とした。

第3回

開催日時

平成29年9月24日（日）9:30～12:00

参加人数 16名

活動内容

- ・紙玉鉄砲の工作体験
- ・落花生の収穫体験と試食



落花生の収穫体験の様子

（9）文化財修復補助等

大徳寺總門保存修理、前橋市郷土芸能連絡協議会、月田近戸神社の獅子舞用具の修理新調事業（県70%市15%）、三夜沢赤城神社のたわらスギ保護養生事業（県70%市15%）、総社地区史跡文化財説明板等設置事業に交付した。



大徳寺總門

第4章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成29年度の発掘調査をふりかえって

①発掘調査事業

今年度は、平成29年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示したとおり11件の発掘調査を実施した。調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確認調査2件以外は、すべて開発事業に伴う記録保存を目的とした調査である。このうち公共開発が5件、民間開発が4件である。記録保存目的の調査では公共開発に伴う1遺跡9地点の調査と個人住宅の建築に伴う調査を直営で実施し、他はすべて民間調査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は17,704m²で、うち保存目的の調査が585m²、公共開発に伴う調査が8,418m²、民間開発に伴う調査が8,701m²であった。また、直営で行った調査は2,227m²、官民委託は6,823m²、民民委託は8,501m²であった。

以下、主な調査について概述する。

②上野国府等範囲内容確認調査

第2期5ヶ年計画の2年目にあたる今年度は、4地点で5箇所のトレンチを設定し、国府関連遺構の検出に努めた。その結果、上野国府の中心施設ではないが、今年度も元總社小学校校庭等で国府に関連すると考えられる遺構を検出することができた。上野国府等範囲内容確認調査では、ここ数年国府関連遺構の検出が続いていること、上野国府を推定する材料が徐々に蓄積されつつある。

③元總社蒼海遺跡群(125)・(126)・(94街区)

元總社蒼海土地区画整理事業に伴う元總社蒼海遺跡群の発掘調査は、今年度は3件の調査を実施し、うち直営が1件で1,595m²、民間委託が2件で1,296m²であった。

蒼海(125)は直営による調査で、1～9区までの9調査区の調査を実施した。1区は染谷川左岸の自然堤防上に古墳時代から平安時代の堅穴住居が密度濃く分布する。6区は国分尼寺南側に位置し、側溝をもつ東西方向に走行する古代の道路跡が検出され、作道された時期から上野国府に関連した施設の可能性がある。8区では古墳時代の堅穴住居が4軒検出され、蒼海(38)15区で検出された5世紀後半～6世紀前半の集落の一部になるものと想定される。

蒼海(126)は官民委託による調査で、蒼海城本丸北西部分の土壘および堀跡を発見した。堀跡

は断面観察により複数回の掘り返しが認められた。また、土壘下から10世紀以降の堅穴住居跡が確認された。

蒼海(94街区)は店舗の建設に伴う調査で、縄文・古墳・平安時代の堅穴住居が密度濃く検出された。特筆すべき遺物として、縄文時代前期後半の住居跡から県内において類例の少ない彩漆された浅鉢が出土している。

④山王若宮V遺跡

山王小学校のプール改築工事に伴う調査で、縄文時代から古墳時代にかけての遺構・遺物を検出した。縄文時代は中期の住居跡が1軒検出され、該期に前橋台地東部においても居住活動が営まれていたことが分かった。また、古墳時代では、4世紀の周溝墓1基、4～6世紀の古墳3基、4世紀の住居跡4軒等が検出された。

⑤五代伊勢宮VII・VIII遺跡

五代南部工業団地の拡張に伴う五代東田遺跡東側の台地上の調査で、縄文・古墳・平安時代、浅間B軽石降下以降の堅穴住居跡等を検出した。特に、浅間B軽石降下以降と考えられる堅穴住居は7軒検出されており、柱穴の位置や形態化したカマドなど、中世の堅穴状遺構への過渡期を示す重要な事例である。五代伊勢宮VII・VIII遺跡は年代幅や多様な遺構が認められるに限らず、各時代の集落規模は小さい。台地の縁辺部にあたることもその要因の一つと考えられる。

⑥小島田清水尻遺跡

大規模店舗の建設に伴い、現状保存不可能な建物部分について、平成29年4月から6月にかけて調査を実施した。調査の結果、5～6世紀代の古墳3基、平安時代の堅穴住居跡10軒、室町時代の掘立柱建物跡8棟などを検出した。

⑦西大室七ツ石遺跡

太陽光発電施設の建設に伴い、現状保存不可能な貯水池部分について、平成30年1月から3月にかけて調査を実施した。調査の結果、6世紀代の古墳2基を確認した。また、古墳の周掘内から縄文時代早期の撚糸文土器を伴う堅穴住居跡が確認され、該期の住居跡の検出は、本市において2例目となった。

⑧池端北耕地下ノ割遺跡

関越自動車道駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化整備事業に伴い、平成29年8月から9月にかけて調査を実施した。調査の結果、

平安時代の竪穴建物跡6軒、奈良時代の掘立柱建物跡1棟などを検出した。掘立柱建物跡は、柱穴が1m四方の方形状を呈し、南北3間、東西4間以上の大規模なものである。

<2>開発に伴う事前協議

本年度は2,989件の開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会があった。また、文化財保護法第93条第1項の届出は500件を超えた。平成24年度『前橋市遺跡分布地図』情報の公開に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地の拡大により、照会・届出件数が一気に増大したが、本年度は昨年度に比べてさらに増加傾向にあり、相変わらず市内における開発事業の多さを物語っている。

試掘・確認調査実施件数は32件であり、このうち17件で埋蔵文化財の存在を確認した。うち2件が発掘調査に移行し4件が現在調整中である。その他については、試掘調査結果を受けて計画変更等により現状保存を図った。その他に、各種開発工事中の立会調査を57件実施した。

<3>台帳整備事業

平成29年度の台帳整備事業は、まず昨年度下半期に実施した本発掘調査及び試掘調査実施箇所のデータを9月までに、また本年度上半期のデータは2月までに遺跡地図に加筆した。また、過去5年間の試掘調査実施箇所のうち遺跡地図未記入分について、改めてデータを整理し前橋市遺跡分布地図への書き込みを行った。なお、包蔵地の範囲変更が生じた場合は、隨時、県の情報システム上に反映されるよう、データの改訂を申請している。

<4>資料整備事業

①普及関係

小学校高学年児童を対象とした埋蔵文化財普及パンフレット『いせ・きワールドin 前橋2018』を刊行し、市内小学校に配布した他、一般用として公民館等の公共施設にも配布した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展における展示のほか、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフオレストにおいて出土資料の貸出しや展示替えを行った。さらに、一昨年から実施していた「鳥羽収蔵庫展」を「新収蔵品展」として平成28年10月に開館した総社歴史資料館に場所を移し、平成29年10月17日から11月5日まで18日間の会期で開催した。主に平成28年度に本市で発掘調査を実施した遺跡の出土品を中心して展示公開した。

②資料整備

昨年度に引き続き収蔵資料の整理を行い、調査図面・写真資料及び報告書等の整理・台帳作成はほぼ終了した。出土遺物については、五代町からの出土遺物を中心に収蔵整理及び台帳作成を行った。来年度以降も、スケジュールを立て収蔵資料の整理を行い、複数年度に亘るが、将来的に収蔵資料の台帳化を行う予定である。

(2) 平成 29 年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺跡名	所在地	面積 (m ²)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
1	上野国府等範囲内 容確認調査	元総社町	385	阿久沢智和・ 村越純子	範囲内容確 認調査	6月1日 ～ 1月15日	古墳～平安住居 跡、掘立柱建物 跡、道路跡、溝 跡、土坑
2	元総社蒼海遺跡群 (125)	元総社町	1,595	並木史一・ 高山剛	元総社蒼海 土地区画整 理事業	5月17日 ～ 1月19日	古墳～平安住居 跡、道路状造構、 溝跡、土坑、蒼 海城堀跡
3	元総社蒼海遺跡群 (126)	元総社町	491	毛野考古学研 究所 山本千春	元総社蒼海 土地区画整 理事業	10月2日 ～ 11月17日	蒼海城堀跡・土 塁、平安住居跡、 溝、土坑
4	元総社蒼海遺跡群 (94街区)	元総社町	805	毛野考古学研 究所 伊藤順一	商業店舗建 設	4月17日 ～ 6月16日	縄文住居跡、古 墳～平安住居 跡、土坑、溝跡
5	山王若宮V遺跡	山王町	1,147	技研コンサル 前田和昭	山王小学校 プール改築 建設工事	11月9日 ～ 12月25日	古墳、周溝墓、 縄文住居跡、古 墳住居跡、溝、 土坑
6	五代伊勢宮VII遺跡	五代町	3,600	毛野考古学研 究所 日沖剛史	五代南部工 業団地拡張 事業	2月13日 ～ 5月17日	縄文住居跡、古 墳～平安・中世 住居跡、周溝墓、 土坑、溝跡
7	小島田清水尻遺跡	小島田町	5,496	山下工業 青木利文	大規模商業 店舗建設	4月1日 ～ 6月30日	古墳、平安住居 跡、道路跡、室 町屋敷跡
8	小稻荷遺跡群 西 大室七ツ石遺跡	西大室町	2,200	測研 大塚昌彦	太陽光発電 施設	1月22日 ～ 3月27日	古墳、縄文住居 跡
9	池端北耕地下ノ割 遺跡	池端町	1,585	山下工業 永井智教	駒寄スマートイ ンター チェンジ大 型車対応化 整備事業	8月1日 ～ 10月12日	奈良大型掘立柱 建物跡、平安住 居跡、道路跡、 溝跡
10	二之宮八王子古墳	二之宮町	200	神宮聰・ 岩丸展久・ 小峰篤・ 寺内勝彦・ 小島純一	個人住宅建 設	5月23日 ～ 11月28日	古墳
11	遠見山古墳	總社町總社	200	小川卓也	範囲内容確 認調査	10月2日 ～ 1月26日	古墳

(3) 平成 29 年度 埋蔵文化財報告書一覧表

No.	報 告 書 名	発 行 者	発行年月日	備 考
1	推定上野国府 ～平成 28 年度調査報告～	前橋市教育委員会	H30. 3. 20	
2	元總社蒼海遺跡群(124)	前橋市教育委員会	H29. 12. 22	
3	元總社蒼海遺跡群(125)	前橋市教育委員会	H30. 3. 23	
4	元總社蒼海遺跡群(126)	前橋市教育委員会	H30. 3. 23	
5	山王若宮 V 遺跡	前橋市教育委員会	H30. 3. 23	
6	五代伊勢宮VII・五代伊勢宮VIII遺跡	前橋市教育委員会	H30. 3. 23	
7	池端北耕地下ノ割遺跡	前橋市教育委員会	H30. 3. 23	
8	朝倉伊勢西No.3遺跡	前橋市教育委員会	H29. 8. 28	

(4) 平成 29 年度 立会調査一覧表

	所 在 地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調 査 結 果
1	力丸町	285.5	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.4.3	埋蔵文化財検出なし
2	元総社町	2,775.8	店舗建設（基礎工事）	H29.4.10	埋蔵文化財検出なし
3	横沢町	339.4	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.4.10	埋蔵文化財検出なし
4	堀越町	596.0	建売住宅建設（合併浄化槽）	H29.4.10	埋蔵文化財検出なし
5	富士見町皆沢	237.3	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.4.11	埋蔵文化財検出なし
6	堀越町	596.0	建売住宅建設（合併浄化槽）	H29.4.14	埋蔵文化財検出なし
7	柏倉町	3,250.0	老人多機能型施設建設（基礎工事）	H29.4.19	遺物包含層。縄文土器片
8	青葉町	994.0	集合住宅建設（碎石置換）	H29.4.28	As-B 軽石（1108 年降下）下の水田
9	房丸町	1,801.0	集合住宅（表層改良）	H29.5.8	埋蔵文化財検出なし
10	横手町	238.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.5.11	埋蔵文化財検出なし
11	上泉町	299.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.5.15	埋蔵文化財検出なし
12	朝倉町三丁目	767.0	建売住宅地造成（切土工事）	H29.5.17	遺物出土範囲を確認。古墳時代の土器（高杯、壇、壺等）
13	西善町	300.7	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.5.22	埋蔵文化財検出なし
14	五代町	3,225.0	駐車場整備（L 型擁壁設置）	H29.5.25	埋蔵文化財検出なし
15	柏川町深津	600.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.5.30	埋蔵文化財検出なし
16	力丸町	343.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.2	埋蔵文化財検出なし
17	鳥取町	490.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.7	埋蔵文化財検出なし
18	茂木町	500.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.14	埋蔵文化財検出なし
19	河原浜町	210.1	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.19	埋蔵文化財検出なし
20	元総社町		下水管理設工事	H29.6.19	埋蔵文化財検出なし
21	上佐鳥町	330.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.22	埋蔵文化財検出なし
22	宮地町	255.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.6.30	埋蔵文化財検出なし

23	桶越町	311.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.7.3	埋蔵文化財検出なし
24	富士見町原之郷	2,337.0	宅地造成（下水管渠設工事）	H29.7.6	埋蔵文化財検出なし
25	新堀町	229.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.7.10	埋蔵文化財検出なし
26	横手町	182.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.7.14	埋蔵文化財検出なし
27	広瀬町一丁目	401.0	表層改良工事	H29.7.24	埋蔵文化財検出なし
28	元総社町	1,257.0	宅地造成（土留め基礎工事）	H29.7.28	縄文時代の住居1軒。古代の住居5軒。縄文土器片、長胴甕、高盤
29	元総社町		看板設置工事	H29.7.31	古代の住居2軒、竪穴状遺構1基。土師器片
30	青梨子町	327.0	個人住宅建設（表層改良工事）	H29.8.1	遺構の検出なし。縄文土器片、布目瓦片
31	萩窪町	324.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.8.2	埋蔵文化財検出なし
32	朝倉町	1,998.0	造成工事（土ずき取り）	H29.8.17	埋蔵文化財検出なし
33	柏川町女測	330.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.8.21	埋蔵文化財検出なし
34	元総社町	919.0	集合住宅（樹木抜根・進入路整備）	H29.5.9・5.18・8.23	古代住居1軒。須恵器椀、土師器片
35	青梨子町	267.0	宅地造成（L型擁壁設置工事）	H29.10.11	埋蔵文化財検出なし
36	富士見町時沢	319.0	個人住宅建設（基礎工事）	H29.10.11	埋蔵文化財検出なし
37	総社町總社	250.2	個人住宅建設（基礎工事）	H29.10.14	埋蔵文化財検出なし
38	茂木町	669.0	集合住宅建設（合併浄化槽）	H29.10.20	埋蔵文化財検出なし
39	高井町一丁目	236.6	建売住宅建設（基礎工事）	H29.10.20	埋蔵文化財検出なし
40	茂木町	320.0	個人住宅建設（合併浄化槽）	H29.10.30	埋蔵文化財検出なし
41	江木町	3,318.0	果菜類選果場建設	H29.11.6	埋蔵文化財検出なし
42	日輪寺町	216.1	個人住宅建設（地下空間スペース）	H29.11.27	埋蔵文化財検出なし
43	川曲町	461.4	店舗建設（基礎工事）	H29.11.29	埋蔵文化財検出なし
44	富士見町米野	3,006.0	農地改良（L型擁壁設置）	H29.12.4	埋蔵文化財検出なし
45	箱田町	1,656.0	宅地造成（開発道路新設）	H29.12.5	埋蔵文化財検出なし
46	龜里町	2,217.1	集合住宅建設（合併浄化槽）	H29.12.18	埋蔵文化財検出なし
47	元総社町	223.0	個人住宅（基礎工事）	H29.12.18	埋蔵文化財検出なし

48	元総社町	3,307.0	建築分譲	H29.12.20	埋蔵文化財検出なし
49	大手町一丁目	1,144.0	旧前橋労働基準監督署建物解体	H30.1.10	再築前橋城の土壌の最下部。陶器(明治以降と思われる)
50	朝倉町	999.0	薬局建設(合併浄化槽)	H30.2.21	埋蔵文化財検出なし
51	小島田町	46,573.0	道路側溝工事	H30.2.23	噴砂1箇所、中世土坑(芋穴)1箇所
52	新堀町	608.0	店舗建設(合併浄化槽)	H30.2.28	As-B軽石(1108年降下)下の水田(畦畔)1条
53	富士見町時沢	319.0	個人住宅建設(合併浄化槽)	H30.3.1	埋蔵文化財検出なし
54	元総社町		土地区画整理(道路側溝工事)	H30.3.5	縄文遺物包含層又は住居。縄文土器片(諸磯等)
55	元総社町	232.0	個人住宅建設(基礎工事)	H30.3.8	遺構の検出なし。土師器片
56	朝倉町	989.0	薬局建設(合併浄化槽)	H30.3.28	埋蔵文化財検出なし
57	総社町総社	950.0	集合住宅建設(基礎工事)	H30.3.30	遺構の検出なし。土師器片数点

(5) 平成29年度 試掘・確認調査一覧表

	所在地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1	荒子町	1,270.0	露天資材置場建設	H29.4.13	遺構の検出なし。土師器片
2	広瀬町三丁目	409.2	集合住宅建設	H29.4.25	古代の溝1条。土師器片
3	総社町植野	5,951.5	宅地造成	H29.5.9~5.10	時期不明の溝、ピット2基、古代の遺物包含層。土師器片
4	元総社町一丁目	991.0	集合住宅建設	H29.5.12	埋蔵文化財検出なし
5	西片貝町三丁目	1,764.0	集合住宅建設	H29.5.22	埋蔵文化財検出なし
6	西大室町	22,894.0	太陽光発電施設建設	H29.6.1~6.6	古墳7基、炭化物を含んだ薄い土坑多数。土器片
7	下新田町	5,304.0	宅地造成	H29.6.22~6.23	埋蔵文化財検出なし
8	総社町植野	637.0	宅地造成	H29.7.3	古墳の周堀。土師器片少量
9	苗ヶ島町	4,200.0	道路築造	H29.7.12	埋蔵文化財検出なし
10	柏倉町	1,617.4	駐車場造成	H29.7.13	埋蔵文化財検出なし
11	茂木町	3,667.0	宅地造成	H29.7.25	遺構の検出なし。埴輪片少量
12	閑根町	1,080.0	道路新設	H29.8.29	遺構の検出なし。埴輪片1個

13	朝倉町	13,000.0	道路改良	H29.9.8	時期不明の溝。土師器片・須恵器片
14	古市町、箱田町の各一部	15,627.5	土地区画整理	H29.9.11・9.13	埋蔵文化財検出なし
15	元総社町	243.0	土地区画整理	H29.9.26	中世の堀。土師器片
16	山王町	1,147.5	プール改築	H29.10.4	古墳時代の住居5軒、溝3条。土器片（石川式）、埴輪片
17	後家町	4,000.0	宅地造成	H29.10.24	中世の畦畔又は道と思われるもの
18	西大室町	22,894.0	太陽光発電施設建設	H29.10.26・10.27	埋蔵文化財検出なし
19	日輪寺町	664.2	公民館建設	H29.10.30	平安時代の住居又は遺物包含層と思われる遺構、溝2条。土師器片等
20	稻荷新田町	2,662.6	宅地造成	H29.11.10	平安時代の水田（畦畔）
21	二之宮町	2,963.0	児童福祉施設建設	H29.11.15	遺構の検出なし。古墳時代土器片
22	北代田町	2,949.5	宅地造成	H29.11.29	時期不明溝
23	箱田町	1,621.7	集合住宅建設	H29.12.12	平安時代の水田（畦畔）
24	上細井町	7,527.0	土地改良事業	H29.12.18～12.21	古代の住居7軒、溝1条、土坑2基、ピット。土師器片、須恵器片
25	上佐鳥町	745.0	部室・雨天練習場建設	H29.12.25	埋蔵文化財検出なし
26	元総社町	1,355.3	店舗建設	H30.1.11	埋蔵文化財検出なし
27	稻荷新田町	1,382.0	集合住宅建設	H30.1.16	平安時代の水田（畦畔）
28	上細井町	13,600.0	土地改良事業	H30.1.31・2.1・2.13	古代の住居12軒、ピット（柱穴）、溝、硬化面、古墳の周縁。土師器片、須恵器片
29	朝倉町	2,718.0	ガソリンスタンド建設	H30.2.16	埋蔵文化財検出なし
30	上細井町	25,100.0	土地改良事業	H30.3.7～3.8	遺構の検出なし。縄文時代の土器（諸磯等）片・石器、土師器片
31	上細井町	13,600.0	土地改良事業	H30.3.12～3.19	古代の住居多数、ピット（柱穴）、土坑、溝、硬化面、古墳の周縁。土師器片、須恵器片、縄文土器片、石器、埴輪片
32	大手町二丁目	2,035.7	保育園建設	H30.2.26・3.22	時期不明溝

平成 29 年度上野国府等範囲内容確認調査

調査地 前橋市元総社町一丁目 33-11 ほか

調査期間 2017. 6. 1 ~ 2018. 1. 15

調査面積 385 m²

調査担当 阿久澤智和・村越純子



各トレンチ位置図 (1/50,000)

調査の経緯

上野国府は前橋市元総社町付近に存在していたと推定されているが、その遺構が未発見なために詳細が不明なことから、上野国府の国府および関連施設の検出と解明を目的として、上野国府等範囲内容確認調査を平成 23 年度から実施している。事業開始当初は 5 カ年計画で実施していたが、5 カ年目の平成 27 年度でも目的が達成されないことから、5 カ年計画を延長し引き続き調査を実施するはこびとなつた。平成 29 年度は第 2 次 5 カ年の 2 年次に当たる。

調査目的

平成 29 年度調査は、①元総社小学校およびその西方における国府関連遺構の確認 (51・54 トレンチ)、②推定東山道国府ルートの確認 (52・53 トレンチ) を目的としたほか、③国府推定地 B 案の調査 (50 トレンチ) (元総社蒼海遺跡群(124)補足調査) を実施した。

調査成果

①元総社小学校およびその西方における国府関連遺構の確認 (51・54 トレンチ)

元総社小学校校庭で実施した 51 トレンチの調査

では、古代の柱穴が東西方向に並んで 2 間分 (5 基) 検出された。2 間分のうちの両端の柱穴は、覆土や柱の当たりの検出状態からそれぞれ 2 基の柱穴が重複しているものと判断した。この柱穴列は掘立柱建物 (6 号掘立柱建物跡) のものと考えられ、他の柱穴は調査区外に存在すると推定される。なお、柱間は約 2.7m (9 尺) で、主軸は北から東へ 5° 傾く。なお、柱穴のうち中央のものは他のものよりもやや大きく、覆土にシルト質土が層状に堆積するほか、人頭大の比較的扁平な川原石が含まれているなど、他の柱穴と特徴が異なる。



51 トレンチ検出柱穴列 (6 号掘立柱建物跡)

また、掘立柱建物跡の東で、約 1 m 間隔で連続する南北方向の溝跡が 4 条検出された。溝跡の規模等は一番西の溝跡から、幅約 1.5m、深さ約 20cm で断面が皿状。次が幅約 1.5m、深さ 25cm で逆台形に近い形で東側に段を持つ。次が幅 1 m 程度であるが、底面の凹凸が顕著で平面形状も整っていないことから溝ではない可能性も考えられる。一番東の溝跡は幅約 1 m、深さ約 30cm で断面形状が逆台形を呈している。

元総社小学校の西方の調査を目的とした 54 トレンチの調査では、まず遺構確認面で道路遺構が検

出された。道路遺構は北から西へ20度の傾きを持ち、側溝を伴わず硬化面が帯状に続くのみであった。その下層で住居跡が複数軒検出されたが、主に9世紀後半から10世紀前半にかけての住居を中心で、8世紀後半の住居跡が一番古い。なお、これらの住居跡の下位には土坑が存在するが、地山の粘質土層を不定形に掘り込んでいることから、粘土探掘坑の可能性が考えられる。

このトレンチでは掘立柱建物跡の柱穴と推定されるビットが1基検出されている。このビットは掘立柱建物の南西隅の柱穴と推定される。その他に、同軸上でビットが連続して検出されている。この軸は北から西へ4度傾き、ビットの間隔は南から約2.1m(約7尺)、約3m(約10尺)を測る。そのうちの1ヶ所のビットは3基分が重複していた。同軸上という特徴からこれらビットは柵列等の可能性が考えられるが、画一的に配置された掘立柱建物跡の可能性がある。また、ビットはその重複関係から9世紀後半以前と推定される。



54 トレンチ 掘立柱建物跡とビット列

その他にトレンチの西端付近では古代の溝跡3条検出されている。1号溝跡は北から西へ32度の傾きをもち、幅約2m、深さ約40cmを測り断面が逆台形で、覆土の状況から人為的に埋没していると推定される。1号溝跡の埋没後に2号溝跡と3号溝跡が掘られている。両溝とも走向が南北方向で、2号溝が幅約1m、深さ約50cmを測り断面がV字形を呈する。3号溝は幅約1.7m、深さ50cmを測り断面が逆台形を呈する。2号・3号溝跡は覆土の状況から自然埋没と考えられる。なお、2号溝跡に接して土坑状の遺構が存在し、そこには柱穴状のビットも絡んでいた。ことから、何かしらの建物が存在していた可能性もある。

②推定東山道国府ルートの確認 (52・53 トレンチ)

52トレンチでは表土の下層が基盤の総社砂層となっていたり、奈良・平安時代の層はすでに削り取られていた。検出遺構は中世以後の遺構と推定され、道路遺構は検出されなかった。

53トレンチは東山道駿路国府ルートの名残の伝承をもつ道の南側に位置する。道の北側には道に沿うように「芦田堰」という近世に開削された用水路が流れる。

調査の結果、古代の道路遺構は検出されなかった。トレンチでは表土の下層に粘質土の堆積が確認されたが、その層中で特に浅間A輕石が多く含まれる層位が確認された。さらにその下層の粘質土層には高師小僧が多く確認された。その下層には河川由来と考えられる砂層とシルト層が検出された。そのシルト質土の下層はピンポールによる確認のみであるが、河床疊層もしくは基盤層(総社砂層)と推定される。砂層の中から磁器の破片が出土したことから、これらの堆積物は中世以後に堆積したものと考えられる。これらのことから、この低地はかつて染谷川の流路であったが、近世に流路の変化とともに離水し江戸時代後期にはかなり陸化していたと考えられる。また、水成堆積物が確認できたことから、土橋状の道路は古代には存在していたのではないかと考えられる。



53 レンチ（白点）とその周辺（東から）



53 レンチ 土層堆積状態（レンチ北壁）

③国府推定地B案についての調査（50 レンチ）

從来から、土取りされている周辺よりも土層の残存状態が良好であることが想定されていたが、調査の結果、良好な状態が確認できた。現在の表土は、曲輪の内側に築かれた土壘を平らにした土と考えられ、その下層に旧表土と浅間B軽石混入土層の堆積が確認された。中世の遺構面はこのレベル付近と推定される。その下層に奈良・平安時

代の遺物包含層と遺構面が存在し、さらにその下層には地山となる粘質の強い総社砂層への漸位層と、総社砂層が確認された。

遺構に関しては、調査区が長く狭いことから、全容が把握できた遺構は少ない。中世の遺構面の下位では、10世紀から11世紀にかけての住居跡が複数検出されたことから、当該期にこの付近に集落が存在していたと推定される。それ以前の住居跡では7世紀後半のものが1軒検出されているのみである。なお、10世紀後半の住居跡の床面直上から銅印が出土している。その他に調査区北寄りで古代の溝跡が検出されたが、この溝は断面が緩やかなU字形を呈し二段となっており幅2.2m、深さ50cmで、北から西へ50度傾いている。下段の覆土が非常に硬化していたことから、道として使用された時期があると考えられ、出土した遺物や重複関係から10世紀後半には埋没していたと推定される。その他に粘土探掘坑と考えられる古代の土坑が多数検出されている。



50 レンチ全景（南から）

②元総社蒼海遺跡群(125)

調査地 前橋市元総社町
調査期間 2017.5.17～2018.1.19
調査面積 1,595 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 並木史一・高山 剛



調査の経緯

元総社地区については元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴い長年に亘り発掘調査が実施されてきた。本年はその19年目に当たる。平成29年4月20日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海地区区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が、前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営で発掘調査を実施することとなった。これを受け、5月17日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果

1区：古墳時代から平安時代にかけての堅穴住居



1区調査区全景（南から）

跡24軒、古代の道路状遺構1条、古代の掘立柱建物1棟等が検出された。4世紀から9世紀までの住居が重複する染谷川の自然堤防上に築かれた集落遺構。尾根部の高い箇所に位置するため、周辺遺跡同様に住居が密集している。9世紀の住居からは、墨書の須恵器坏や刻書の瓦が出土した。また、縄文中期の土坑から深鉢が出土している。

2区：本調査区では堅穴住居1軒、溝跡5条、道路状遺構1条、土坑墓2基、井戸跡2基等を検出した。周辺の調査では元総社蒼海（33）で検出されている溝跡の同一延長上と推定される東西方向に走向するW-1～3号溝跡を検出した。また南北方向に走向するW-5号溝は、「蒼海城絵図」並びに山崎一氏の縄張図から「清徳寺」・「讃岐屋敷」の間に存在する蒼海城の堀跡と推定される。W-5号溝跡は近年まで水路利用がなされており、東側の堀の立ち上がり部に人の頭ほどの石が列状に配置されていた。堅穴住居は西竪をもつ住居で、出土した遺物から9世紀代後半のものと推定される。

3区：調査の結果、堅穴住居跡1軒、土坑3基、ピット3基を検出した。全体的に調査区内の遺構密度は低かったため、特出する遺物も検出されていない。堅穴住居跡は竪位置が調査区外となり位置・形状は不明だが、東竪と推定される。焼土粒は広範囲に検出された。出土遺物・覆土等から8世紀代前半のものと推定される。

4区：区画整理の換地の関係で旗状の調査区となつた。調査区東側では現表土と遺構確認面が20cm弱と浅く、平面形状が方形のピット20基を検出し、その広がりは調査区中央部まで及ぶ。土坑跡は35基検出した。ほぼ中世の遺構で、古代のピット・土坑跡は検出されなかった。調査区西側では中世の土坑墓1基を検出し、陶器灯明皿1点、周辺から鉄製の鋸片が検出された。また調査区西側から寛永通宝銭1点を検出した。

5区：6世紀から7世紀代の堅穴住居跡4軒、土坑15基等が検出された。現表土から40cm程の総社砂層地山付近まで客土となっており、As-B、As-C



5区調査区全景（南から）

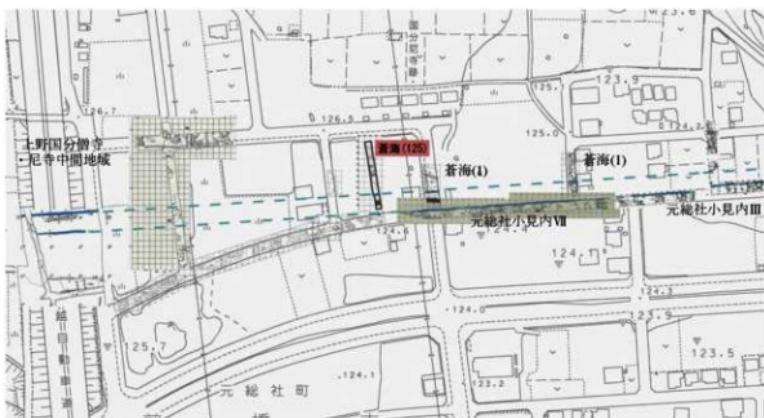
を多く含む層はほぼ失われ、検出されたのは地山を掘り込む古墳時代の遺構のみであった。遺構の数量についても、調査区北側では複数の調査区において多数確認されているのに対し、本調査区では少数に留まった。6世紀の住跡1軒では、周溝に加え仕切溝も検出された。

6区：古代の道路状遺構1条及び古代の溝跡2条、風倒木痕等が検出された。調査区は、上野国分尼寺の南側に位置し、道路状遺構は、南側約80mの地点となる。遺構密度が低いのは、何らかの規制が働いた可能性がその理由の1つとして想定される。道路状遺構とその北側の1号溝跡は並走する。1号溝跡は最大上幅1.3m、深さ40cm、検出全長は4.3mであった。道路状遺構は1号溝跡の南肩



6区調査区全景（写真中央が1号溝跡、
その手前が道路状遺構・南から）

から調査区南端まで9.5m以上の幅をもち、1号溝跡は北側側溝となる。遺物の出土がなかったため、厳密な時期特定は難しいが、1号溝跡は、覆土からAs-B降下時には廃絶していたと捉えられ、道路



道路状遺構および両側側溝の検出状況

状遺構も As-C 混土が硬化面の上層にあることから、古代のものと考えられる。道路硬化面下には、白色粘質土を覆土とする土坑状の落ち込みがあり、その中から 4 世紀代の石田川式土器が検出された。

上野国分尼寺の南を東西に走行する道路状遺構は、両側側溝をもつものとして指摘されており、今回の調査では追認する結果となった。この道路状遺構および両側側溝の検出事例としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域、本調査区、元総社蒼海遺跡群(1)、元総社小見内Ⅲ遺跡、元総社小見内Ⅷ遺跡となる。確認地点の広い南側側溝は東西 630 m に亘り、西は関越自動車道まで確認されているが、上野国分僧寺まで続いている可能性もある。両側溝間、道路状遺構が想定される範囲において、8 世紀前半から 9 世紀までの住居跡が見られないことから、道路状遺構は 8 世紀前半以降に建造され、9 世紀には廃絶していたと考えられる。

7 区：調査区は元総社蒼海遺跡群の中央部、中世に築造された蒼海城の本丸とされる郭の西側に位置する御靈神社の西脇である。調査の結果、蒼海城の堀跡 1 条、道路状遺構 1 条、土坑 19 基、ピット 82 基が検出された。堀跡は平成 28 年度に調査した元総社蒼海(122)8 区、元総社蒼海(126)で検出された堀跡と走向が一致し、同一のものと推定され、蒼海城本丸北側の堀跡が西側へ伸長することが確認された。また、検出されたピット群は、平面形状は方形ないしは梢円形で、そのほとんどが、埋土には As-B 混土を主体とする中世以降に帰属するものと考えられ、蒼海城関連の建物跡の可能性がある。道路状遺構については、硬化面を除去後掘り下げたところ、直径 30cm 程度の川原石が埋設されていた。

8 区：5 世紀から 6 世紀代の堅穴住居跡 4 軒、中世の溝跡 3 条、古代の土坑 5 基、中世の土坑 4 基、古代のピット 2 基、中世ピット 10 基が検出された。堅穴住居跡の残存状況は良く、調査区南側に隣接する元総社蒼海遺跡群(38)と同様に古墳時代の集落跡が広がる。堅穴住居の 1 辺が 7m を超えるな



8 区調査区南側全景（南から）

ど、南側調査区と類似する点が窺えるが、竈の支脚に重ねた土器を使用する住居は確認されなかつた。

9 区：調査区は 7 区の北西約 300m の位置にあり、蒼海城縄張絵図では沼が描かれている部分にあたる。現況でも調査区と周辺の微高地との比高差が約 3m 程ある。ここでは調査区を 2 つに分け、いずれの調査区からも蒼海城の堀跡と考えられる溝跡を検出した。北側の 9-1 区からは東西方向に走向する W-1 号堀跡を検出した。W-1 号堀跡は調査地北西の微高地に沿うようなカーブを描いた立ち上がりが確認され、沼状に広がる湿地帯の立ち上がりの可能性が考えられる。また、9-1 区の南側に位置する 9-2 区では、南北に走向する W-2 号堀跡を検出した。W-2 号堀跡は堀の東側の立ち上がりと、堀跡の底部の形状を確認した。この堀跡は元総社蒼海(1)及び元総社蒼海(6)等で検出された堀跡と接続する可能性がある。



9 区蒼海城堀跡層断面（北東から）

③元総社蒼海遺跡群(126)

調査地 前橋市元総社町 1893-2 ほか
調査期間 2017. 10. 2～11. 17
調査面積 491 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 山本千春(有限会社毛野考古学研究所)

調査の概要

区画整理課と元総社蒼海土地区画整理事業における埋蔵文化財の取扱いについて協議をおこなつた。これを受け平成 29 年 7 月 5 日付で、当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・業務依頼が前橋市

(区画整理課)より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市と協議した。民間調査組織への業務委託については、文化財保護課の監理、指導のもと実施することとなった。平成 29 年 8 月 17 日付で前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査地は蒼海城の「本丸」とされる郭の北西部分にあたり、現存する土塁とこれを囲繞する堀跡の他、土塁築成土下から堅穴状遺構、溝状遺構、井戸、土坑(土坑墓含む)、ピット群等の蒼海城に関連すると考えられる遺構が確認された。堀跡は数回にわたり改変が行なわれていることが確認できた。また、188 基確認されたピット群は平面形態が方形を呈し埋没土に浅間 B 軽石(1108 年)が含まれるものが主体であることから、中世以降に構築されたものと考えられる。柱穴は一部で規則的な配列がみられることから、数棟の建物があったものと推定される。

古代の遺構としては、堅穴住居跡が 3 軒確認され、出土遺物等の観察からいずれも平安時代と考えられる。本調査地は、上野国府の推定域内に含まれるもの、その関連遺構を含め平安時代以前の遺構を明確に確認することはできなかつたが、10 世紀以降は集落城として土地利用がなされていることが確認された。





元總社蒼海遺跡群（126）A区遠景（県庁方面を望む）



A区全景（写真上が北）

中世蒼海城の堀跡



B区2面全景

中世蒼海城の西側土塁下で検出した古代遺構

④元総社着海遺跡群（94街区）

調査地 前橋市元総社町 1607 他

調査期間 2017. 4. 17～6. 16

調査面積 805 m²

調査原因 店舗建設

調査担当 伊藤順一（有限会社毛野考古学研究所）

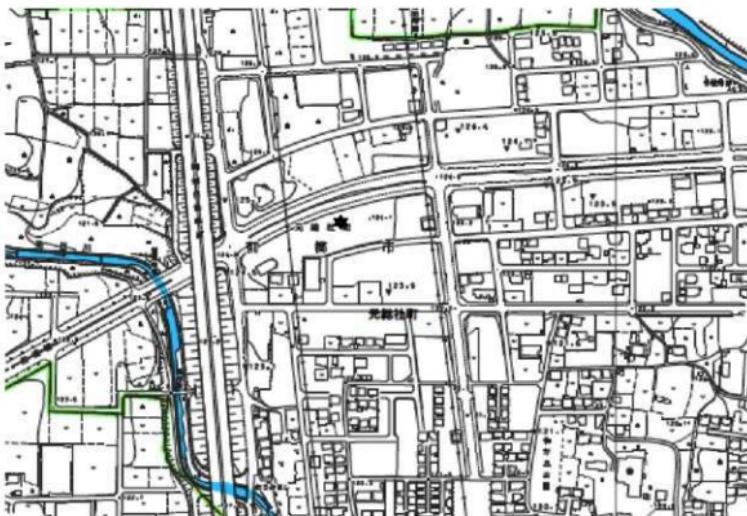
調査の概要

本遺跡の存する前橋市元総社町は、土地区画整理事業が施行中で発掘調査実績が多い市内でも有数の遺構密集地である。

今回、店舗建設にあたり、試掘調査を実施した結果、縄文・古代の住居跡や土坑等を確認した。これを受け、事業者と市教委で埋蔵文化財の現状保存について協議・検討した結果、当該建設工事計画で現状保存が困難な範囲について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。市教委直営による調査は、既に他事業で実施中であるため、民間調査組織での発掘調査実施を提案し、事業者からも承諾を得られた。民間調査組織と事業者との間で、埋蔵文化財発掘調査に係る業

務契約を締結した。また、事業者、民間調査組織、市教委の三者間で発掘調査に関する協定書を取り交わし、現地での発掘調査着手に至った。

調査の結果、縄文時代前期・中期、古墳時代後期、平安時代、中世に帰属する遺構・遺物が検出された。縄文時代では住居跡 7 軒のほか十数基の土坑が検出されており、出土遺物から縄文時代前期後半（諸磯 c 式期）、縄文時代中期後半（加曾利 E 式期）に帰属するものと考えられる。特筆すべき遺物として、前期後半の J H - 6 号住居跡より県内では類例の少ない彩漆土器が出土している。古墳時代以降では、住居跡 31 軒（古墳時代後期 3 軒、平安時代（8 世紀…5 軒、9 世紀…3 軒、10 世紀…17 軒）、時期不明 3 軒）のほか溝跡、土坑が検出された。特筆すべき遺構として、県内でも類例の少ない礎石堅穴建物と考えられる 10 世紀代の H - 20 号住居跡が挙げられる。同住居は、南北を長軸とする隅丸長方形の住居形態を呈し、側柱の配列で礎石が検出され、東壁 3 基、北壁 1 基、南壁 1 基、西壁 1 基の計 6 基の礎石が検出されている。





元總社蒼海遺跡群（94 街区）調査区全景 （写真上が北）



J-6号住居跡（縄文時代の住居跡） 彩漆土器出土状況

⑤山王若宮V遺跡

調査地 前橋市山王町172ほか

調査期間 2017.11.9～12.25

調査面積 1,147 m²

調査原因 山王小学校プール改築建築工事

調査担当 前田和昭（技研コンサル株式会社）

土屋一未（技研コンサル株式会社）

調査の概要

市立山王小学校のプール改築建築工事にあたり、試掘調査を実施した結果、古墳時代の住居跡や古墳周囲等を確認した。遺構の現状保存に係る設計変更が困難であることから、工事に伴う掘削工事計画と遺構検出深度を考慮すると、記録保存のための発掘調査必要であると判断した。

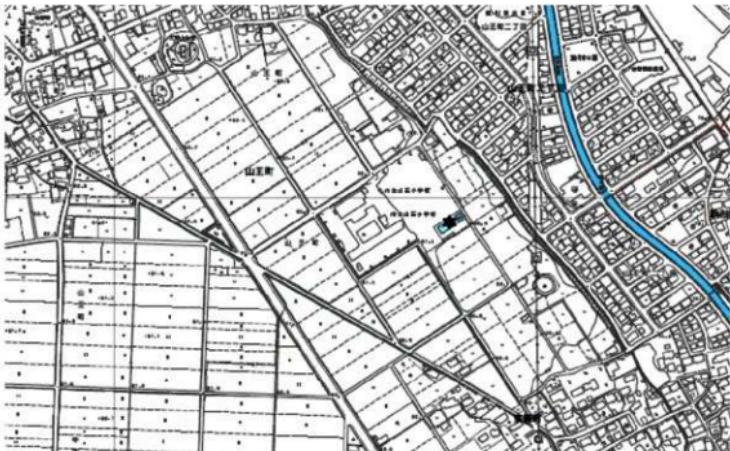
市教育委員会直営事業での発掘調査は、既に他事業で実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

調査地は、前橋市街地より南東へ約6km、前橋市立山王小学校内のプール用地である。前橋台地の東端部に位置し、東に約30m地点は崖となっている。崖下には、旧利根川の河川敷となる「広瀬川低地帯」が広がっている。

調査の結果、縄文時代の土坑2基、中期の住居跡1軒が検出された。弥生時代は遺構の検出はないが、遺物が少量確認されている。古墳時代の遺構は4世紀の周溝墓1基、4～6世紀の古墳3基、4世紀の住居跡が4軒、6～7世紀の溝が1条検出された。

いままで調査地周辺地域では縄文時代の遺構検出例がほとんどなかったが、今回の調査で中期の住居跡が検出され、前橋台地東部でも縄文中期に居住活動が営まれていたことが分かった。住居跡1軒のみの検出であるため集落として機能するほどの営みがあったかは判断できないが、今後、周辺で行なわれる調査に期待したい。

また、周溝墓を含む古墳4基は、主体部、墳丘部がいずれも後世の開発等で削平され周堀の一部のみの確認であるが、M-1号周溝墓は周堀底面から石田川式土器の口縁が出土しており築造時期は古墳時代前期中葉と推定される。M-2号墳は覆土中にHr-F A洪水砂が堆積しており、出土遺物からも5世紀末と推定される。





山王若宮V遺跡 調査区遠景（赤城山を望む）



調査区全景（写真上が南）



古墳（M-2号墳）葺石の検出状況

⑥五代伊勢宮Ⅷ遺跡

調査地 前橋市五代町 952-1 他

調査期間 2017. 2. 13～5. 17

調査面積 3,600 m²

調査原因 工業団地地区画整理事業

調査担当 日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）

春里桃子（有限会社毛野考古学研究所）

調査の概要

本遺跡は、本市中央部赤城山南麓の五代町にある。緩やかな傾斜地で、台地と谷地からなる地形で、周辺では工業団地、住宅団地造成等に伴い数多くの発掘調査実績がある。縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世に至る様々な遺構や遺物が検出される埋蔵文化財の多い地域である。

五代伊勢宮Ⅷ遺跡は、五代南部工業団地拡張事業に係る土地区画整理に伴う発掘調査である。当該地域は、埋蔵文化財の多い地域であることから、事前に試掘確認調査を実施した。試掘確認調査の結果、遺構が検出されたため、前橋市教育委員会と前橋市地区画整理事業課で埋蔵文化財の取扱について

協議を行った。当該造成工事計画では、埋蔵文化財の現状保存は困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。前橋市教育委員会直営の発掘調査は、既に他事業で実施中であることから、民間調査組織による発掘調査で対応することとした。前橋市教育委員会作成の調査仕様書に則り、平成 29 年 1 月 27 日付けで、前橋市と民間調査組織との間で業務委託契約を締結し、2 月 13 日から現地での調査に着手した。

調査の結果、住居跡 22 軒、方形周溝墓 2 基、掘立柱建物跡 1 木棟、土坑 80 基、溝 6 条、性格不明遺構 3 基、ピット 171 基が検出された。住居跡のうち縄文時代と考えられるものは 3 軒（花積下層式・諸磯 a 式・加曾利 E III 式期）、古墳時代前期 4 軒、古墳時代後期 13 軒、平安時代 1 軒、As-B 低下以降 1 軒になることから、本遺跡地は、大きくわけて縄文時代前期～中期、古墳時代前期・後期、平安時代に集落域として利用されていたものと考えられる。





五代伊勢宮跡 調査区遠景 赤城山を望む



H-24号住居跡全景



H-24号住居跡ガマド全景

⑦小島田清水尻遺跡

調査地 前橋市小島田町135他

調査期間 2017.4.1～6.30

調査面積 5,496 m²

調査原因 大規模商業店舗建設

調査担当 青木利文（山下工業株式会社）

調査の概要

本遺跡は、前橋市中央部の小島田町に位置する。調査地の西には、桃ノ木川や寺沢川が流れる。当該地は、広瀬川低地帯と呼ばれ、かつて利根川だった範囲の東端にあたる。現在は水田耕作が営まれており、小島田の集落は東側の一段高い台地上となる。

調査区範囲については、事前に実施した範囲確認調査結果と大規模商業店舗建設工事計画を検討し決定した。発掘調査は、A区とB区に分けて実施した。A区では、古墳3基、小規模な石組みの墓、埴輪を棺桶に転用した墓などが見つかった。

1号墳は、堀を含めた直径約30mである。墳丘部、埋葬部は削平によって残存しない。墳丘の外縁部には、部分的に円筒埴輪が並んでいた。2号墳は、堀を含めた直径は約23.5mを計る。古墳東半分は調査区外で、墳丘部、埋葬部共に削平を受けている。最後に3号墳であるが、堀を含めた直径は、約18mであった。墳丘自体は削平によって消失していたが、中央部には円錐で作られた埋葬部が確認できた。

平安時代では、A区とB区あわせて10軒の住居跡が検出された。住居跡はB区に集中しており、8軒を数える。出土遺物などから10世紀頃の集落と考えられる。室町時代では8棟の掘立柱建物跡や井戸跡、貯蔵用の土坑などが見つかった。





小島田清水尻遺跡 調査区遠景（南東を望む）



小石櫛調査の様子



調査で出土した円筒埴輪、土器類

⑧小稻荷遺跡群 西大室七ツ石遺跡

調査地 前橋市西大室町421他

調査期間 2018.1.22～3.27

調査面積 2,200 m²

調査原因 太陽光発電施設建設

調査担当 大塚昌彦（株式会社測研）

調査の概要

本遺跡は、前橋市北東部の西大室町に位置する。近隣には、前二子古墳をはじめとする大室古墳群があり、土地改良事業や公共事業、民間開発事業などに伴い発掘調査実績も多い。集落跡や生産遺跡、古墳など検出された遺跡は多岐に渡る、埋蔵文化財の宝庫である。

発掘調査を行なった箇所は、南に面した山林の傾斜地である。当該地は、「小稻荷古墳群」として周知されていた一帯で、特に古墳の多い地域である。

開発事業者から、当該地での太陽光発電施設建設の事案を受け、前橋市教育委員会では、範囲確認調査を実施した。その後、開発事業者との協議を踏まえ、止むを得ず現状保存ができない範囲について、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

調査の結果、古墳5基（小石槨3基含む）、縄文時代早期の堅穴住居1軒及び土坑2基が検出された。特に3号墳（円墳）の調査では、円墳にも墓道が存在していることが分かった。また、3・4号墳とも石室左壁の基礎石が内側に大きく傾いており、弘仁9年（818年）の地震に起因する可能性を考えられる。副葬品は、金環、直刀、鉄鏃、漆土玉、須恵器壺瓶・大甕などが見つかった。須恵器大甕にはムカデの圧痕が見られた。

また、本市内で2例目となる縄文時代早期稻荷台式期の堅穴住居が検出されたことは、注目に値する。





小稲荷遺跡群 西大室七ツ石遺跡 調査区全景（写真上が北）



3号墳墓道から石室を望む



3号墳石室全景

⑨池端北耕地下ノ割遺跡

調査地 前橋市池端町 285-2 ほか

調査期間 2017.8.1～10.12

調査面積 1,585 m²

調査原因 駒寄スマートインターチェンジ大型車
対応化整備事業

調査担当 永井智教（山下工業株式会社）
原野真祐（山下工業株式会社）

調査の概要

平成 27 年度に関越自動車道の駒寄スマートインターチェンジ周辺道路整備事業を把握した。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しており、また周辺では関越自動車道建設に伴い多く発掘調査が実施され、遺構が検出されていることから、事業者である前橋市と、埋蔵文化財の取り扱いについて協議し平成 28 年度に試掘確認調査を 2 回に分けて実施した。試掘確認調査の結果、2 回目に実施した午王頭川左岸部分で、住居跡等の遺構を検出した。試掘確認調査と工事計画を検討し、記録保存を目的とした発掘調査実施することで前橋市と合意に至った。

調査の結果、奈良・平安時代の大型掘立柱建物跡 1 棟、竪穴住居跡 6 棟、道路状遺構 5 条、溝跡 2 条、近世・近代の溝跡 3 条などを検出した。

特に奈良時代の 1 号掘立柱建物跡は、身舎の柱穴が 1 m四方の方形かつ大規模なもので、推定上野国府城の発掘調査でもほぼ例のない規模である。調査所見では、片面ないし両面廂の高床構造から四面廂の平地式へと変遷したと考えられ、一棟単独の可能性が高い。また、5 条確認された古代に遡る道路状遺構は、概ね全て平行の位置関係にあることから、同一道路のある時期の一部であったと考えられる。なお、本道路状遺構は、前橋市元総社の総社神社と吉岡町大久保の三宮神社を結ぶ「鎌倉街道」と呼ばれる道路の午王頭川渡河点から北西方向に分岐する直線的な地割上に位置しており、その地割が古代道路であることを証明した。





池端北耕地下ノ割遺跡 調査区遠景（榛名山方面を望む）



調査区全景（写真上が関越自動車道）



1号掘立柱建物全景（柱の位置に人を配置）

⑩二之宮八王子古墳

調査地 前橋市二之宮町 2545-1

調査期間 2017. 5. 23～11. 28

調査面積 200 m²

調査原因 個人住宅付属物置建設

調査担当 神宮 聰 岩丸展久 小峰 篤

寺内勝彦 阿久澤智和 村越純子
小島純一

調査の概要

調査地は、前橋市街地より南東へ約 10km、前橋市立二之宮小学校の南方約 700m の位置にあり、西方約 800m には荒砥川、約 1,600m には広瀬川が流れている。

本発掘調査は、個人住宅付属物置の建築に伴い敷地内に存する古墳の墳丘を削平し整地工事を行なうため、記録保存のための調査を市教育委員会の直営により実施した。

平成 29 年 5 月 23 日より調査を開始したが、当初予定していなかった市教育委員会直営調査であったため、職員数名が手の空いた時間を見計らって断続的に実施した。

古墳は、東側が從前物置用地として利用されていたためほぼ垂直に削平されており、北側についても隣地境界線上にネットフェンスが設置されており、設置時に削平されたものと推測される。なお、墳丘西半分は地権者が異なるため計測できなかつたが、比較的良好に残存しているものと推測される。調査の結果、古墳の規模は、調査範囲内で東西約 22m、南北約 19m、高さ 3.65m を測り円墳と推測される。周堀は不明。また、墳丘から葺石、埴輪は確認されなかつた。主体部は 6 世紀中頃に榛名山から噴出し旧利根川を流下した角閃石安山岩を壁石構成材とする両袖型横穴式石室である。主体部は全長 8.65m、玄室長 5.56m、羨道長 3.09m である。玄室は胴張状で最大幅は 2.1m である。床面は 2~5 cm 程の河原石及び砂利を平坦に敷きつめている状況が確認された。また、石室内からは鉄製大刀が奥壁際と右壁際から出土し、その周囲からは人骨や歯が確認されている。その他に小刀、刀子、鐵鏟、金環等が出土している。





石室全景（東から）



石室内遺物出土状況（太刀）



玄室内部（北から）



石室内出土遺物



玄室内部（東南から）



石室内作業風景（南から）

2 市内遺跡発掘調査事業

(1)事業の目的

試掘・確認調査の実施は、主に周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的規模の大きな土木工事について、その施工により遺跡が破壊されることを未然に防ぐため、地理的状況や周辺での調査実績などを考慮し、遺構の有無、包蔵地内に至っては遺跡の範囲や残存状況などを確認することを目的とする。

試掘・確認調査の実施にあたっては開発者との協議を前提とし、その趣旨について理解と協力のもとに成り立っている。調査の結果、遺構や遺物等を確認した場合は、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う。試掘・確認調査は、埋蔵文化財の現状保存または記録保存（発掘調査）のための基礎調査の面も併せ持つと考えられる。

(2) 試掘・確認調査の方法

① 遺構確認のための掘削作業

工事予定地にトレーニングを設定し、重機による掘削の後、人手による精査を行う。トレーニング内で埋蔵文化財の有無、また、その範囲や密度、検出深度など、埋蔵文化財の内容確認を行う。試掘・確認調査面積は、開発対象面積の1割程度を基準とする。

② 記録作成

掘削したトレーニング位置や検出遺構の分布状況を記したトレーニング配置図を作成する。また、調査地の基本的な土層状況を確認するため、トレーニング内の一部について深掘りし土層断面図を作成する。図面記録の他に、35mmカラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い、写真記録を作成する。

(3) 調査結果

本年度は、別表の「(5) 平成 29 年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を 32 件実

施した。このうち、17 件で埋蔵文化財を検出した。

① 検出した遺構の主な時代

縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世

② 検出した遺構の主な種類

古墳、住居跡、水田跡、溝跡、堀跡等

③ 発掘調査を実施した遺跡

ア 小穂荷遺跡群 西大室七ツ石遺跡
(前橋市 0218 遺跡)

古墳、縄文早期の堅穴住居跡等

イ 山王若宮 V 遺跡

(前橋市 0356 遺跡)

古墳、縄文・古墳時代の堅穴住居跡等

3 遺跡台帳整備事業

(1) 前橋市遺跡地図の更新

遺跡地図作成事業は平成 15 年度から開始し、平成 24 年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行した。

平成 25 年度以降は、開発等に伴う発掘調査で増加した遺跡の分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(2) 遺跡 GIS の更新

平成 20 年度から開始した遺跡 GIS 事業は平成 29 年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡 GIS へ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報も GIS に搭載し、内容の充実を図っていく。

4 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレットの作成

「い・せ・き ワールド in 前橋 2018」

平成 29 年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、「い・せ・き ワールド in 前橋 2018」(A3 版の両面カラー印刷)を作成した。

作成部数は 7,000 部で、両面とも写真を多く取り入れ、調査内容を分かりやすくまとめた。

平成 30 年度当初に市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、埋蔵文化財に関する啓発活動の資料として普及に役立てる。

(2) 出土資料の活用（貸出展示）

常設展示

①群馬県立歴史博物館

市之関前田遺跡・柏倉芳見沢遺跡出土石器
苗ヶ島大畠遺跡・前橋天神山古墳出土土器
元総社蒼海遺跡群出土青白磁梅瓶

②岩宿博物館（みどり市）

上ノ山遺跡・市之関前田遺跡出土石器

企画展示等

①十日町市博物館（十日町市）

後二子古墳出土親子猿・犬付円筒埴輪
上繩引 4 号墳出土犬付円筒埴輪

②高崎市観音塚考古資料館（高崎市）

白藤 V-4 号古墳出土馬形埴輪ほか、
白藤古墳群出土埴輪・土師器・須恵器・勾玉・紡錘車

③群馬県立歴史博物館

白藤 P-6 号古墳出土馬形埴輪
漆崖上漆崖 B 遺跡出土刻書土器
柳久保遺跡出土墨画土師器

④多胡碑記念館（高崎市）

山王庵寺跡出土複弁七弁軒丸瓦

⑤かみつけの里博物館（高崎市）

大屋敷遺跡出土石製模造品・白玉

(3) 貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

博物館からの遺物借用依頼のほか、出版社等からの遺跡や遺物の写真提供依頼や、研究者による遺物見学依頼が増加しており、遺物・写真などの資料を管理するため、鳥羽収蔵庫に収納されている遺物の整理およびデータベース作成を行った。

(4) 展示成果

①総社歴史資料館

総社歴史資料館では、総社・元総社地区で出土した遺物を展示している。代表的なものは、山王庵寺出土の「放光寺」と記された瓦および塑像群、王山古墳出土の大刀形埴輪、元総社地区の推定上野国府出土の墨書き土器、元総社蒼海遺跡群出土の奈良三彩などである。



②元総社公民館

元総社地区の土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壺や高盤などの出土遺物、上野国府に関連する人形や墨書き土器などの複製品、写真などの展示を行っている。



③芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの開設パネル、発掘調査写真などの展示を行っている。

④サンデンファシリティ

見学者体験教室「森の教室」に縄文土器や石器、土師器、須恵器などの遺物、発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子などを撮った写真パネルを展示している。



⑤けやきウォーク前橋

市民プロジェクト作成の金銅製冠を引き続き展示了ほか、大室古墳教室製作の装飾壺、脚付装飾壺、馬具(双葉剣菱形杏葉)4点、縄文耳飾り3点などの展示を行っている。



けやきウォーク前橋展示風景

(5)新出土文化財展 2017

1 事業の目的

文化財保護課では、毎年市内各所において埋蔵文化財発掘調査を実施しており、数多くの遺物や新たな知見を得ている。そこで、平成28年度の発掘調査で出土した遺物等の発掘調査成果を速報的に展示し、広く市民に公開ことにより、市民に文化財に対する興味・関心・理解を深めてもらい、郷土を愛する心を育てることを目的とする。

2 事業に至る経緯

平成27・28年度に鳥羽収蔵庫において元總社地区の発掘調査成果を中心とした展示を行なったが、開催日が1日のみであったことから、複数日の開催が可能で常設展も見学可能な總社歴史資料館に会場を移し開催することとした。

3 開催概要

会 期：10月17日から11月5日 18日間
来場者数：490人

4 展示資料

上野国府等範囲内容確認調査出土無釉陶器高坯／元總社蒼海遺跡群出土鐵製馬具(轡)／五代伊勢宮VII遺跡・川曲阿弥陀西No.3・朝倉伊勢西No.3遺跡解説パネルなど

5 来場者の意見

来場者からは「実際に実物を眼にすることで、文化財に対する興味が湧いた」「開催期間が18日間あったので、都合の良い日に見に来られるのでよかったです」等非常に好意的な意見を多数いただいた。



元總社蒼海遺跡群展示品



来場者の様子



上野国府展示品



来場者の様子

(6) 現地説明会

①小島田清水尻遺跡

場所 前橋市小島田町
対象者 地元住民
実施日 平成 29 年 6 月 13 日
内容 古墳時代古墳ほか



小島田清水尻遺跡地元説明会風景

②山王若宮V遺跡

場所 前橋市山王町（山王小学校）
対象者 山王小学校児童
実施日 平成 29 年 12 月 13 日
内容 古墳時代古墳ほか



山王若宮V遺跡山王小児童説明風景

(7) 講演会・講座

①講演会等講師派遣

場所 高崎市国府公民館
対象者 上野国分寺遺跡愛好会
実施日 平成 29 年 6 月 10 日
講師 阿久澤 智和
内容 高崎市国府地区の上野国分寺遺跡愛好会の総会に際して、隣接した元総社町内にその存在が推定される上野国府の範囲内容確認調査の進捗状況と現段階での調査成果について、2時間程度の講話を行った。

場所 前橋市東市民サービスセンター

対象者 東地区生涯学習奨励員等

実施日 平成 29 年 7 月 21 日

講師 並木 史一

内容 東地区生涯学習奨励員等研修会において条里水田を中心とした東地区遺跡の概要や近年の発掘調査成果等について1時間30分程度の講話を行なった。

場所 前橋市総社歴史資料館

対象者 粕川生涯学習奨励員

実施日 平成 29 年 10 月 25 日

講師 阿久澤 智和

内容 粕川生涯学習奨励員研修において「上野国府」「山王廢寺」の現段階での調査成果について、2時間程度の講話を行った。

②出前講座

「解明！古代群馬の中心「推定上野国府」」

パート II

場所 東市民サービスセンター

対象者 東歴史散歩の会

実施日 平成 30 年 3 月 27 日
講 師 阿久澤 智和
内 容 東歴史散歩の会で開催する上野国府の出前講座は今回で 2 回目。今日は新聞等に掲載された建物跡を中心として、上野国府等範囲内容確認調査のここ数年間の最新情報報を解説した。

(8) 発掘調査資料の整理作業

堀越甲真木 B 遺跡の旧石器時代の石器の整理作業を平成 25 年度から継続して実施している。堀越甲真木 B 遺跡は、堀越町 530-2 にあり標高 165 m の台地上に立地する。調査は、平成 14 (2002) 年度に遊技場駐車場造成にともなって旧大胡町教育委員会が実施した。関東ローム層 AT 下から 1693 点の旧石器が発見された。本市はもとより関東地方の旧石器を研究する上で極めて貴重な資料であるが未整理となっていた。

①平成 25 年度に器種認定、大きさ、重さ、石材等の台帳作成を行った。

②平成 26 年度には石器接合作業、石器実測、分布図作成作業を行った。(年報 45 参照)

③平成 27 年度は接合資料 41 個体の実測とトレースとナイフ形石器などの石器トレース、遺物分布図、器種別分布図、石材別分布図、石器接合図などの作成を行った。

④平成 28 年度は挿図の編集作業を主として行なった。

⑤平成 29 年度に本文編の作成を行なった。また、本文の執筆にあたり器種を再点検した結果、大幅な変更が生じた。それに伴い石器挿図、器種別分布図に修正が必要となった。また、小児頭大に復元できた黒色安山岩接合資料 001 の図も修正をおこなった。年度末に一部石器の撮影と版組みを開始した。また、造構写真的スキャニングも行なった。

⑥平成 30 年度は、写真撮影、写真図版の版組み、

修正挿図の版組み、残っている本文の執筆を行う。また、専門業者に依頼して接合資料の 6 面展開写真撮影、写真図版の版組みを依頼する予定である。原稿は PDF ファイルで完成させ、印刷は 100 部程度を市役所の印刷所で印刷する予定である。

器種の再点検の結果、ナイフ形石器 31、スクレーパー 9、鋸歯縁石器 5、錐形石器 1、石核 31、石刀 82、台形石器 4、台石 1、彫刻刀形石器 1、磨石 1、両極石器 1、両極剥片 2、稜付剥片 7、抉入石器 15、敲石 8、楔形石器 1 となった。

石材は黒色安山岩 783 点・15kg、黒曜石 688 点・1.7kg、黒色頁岩 174 点・5.4kg が主な石材である。

5 文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一斉送付

平成 29 年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があつた。

この寄贈に対する返礼の意味も含め、情報交換及び前橋市の文化財保護行政の周知のため、3 月に『推定上野国府～平成 27 年度調査報告』他 14 冊を 285ヶ所に送付した

(2) 写真資料・図書資料等のデジタル化

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。

6 上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成 23 年度から「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行ないながら事業を実施してきた。

本年度は第2期5か年計画の2年目にあたる。本年度の調査成果を再確認のうえ、来年度の調査計画について協議し調査箇所等について検討するため、以下のとおり委員会を開催した。

(2) 第25回上野国府等調査委員会

開催日 平成30年2月22日（木）

開催場所 文化財保護課2階会議室

《報告》

①平成29年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果について

②平成29年度上野国府等範囲内容確認調査の成果について

《協議内容》

平成30年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

《主な意見》

- 元総社蒼海遺跡群（125）6区で検出された道路状遺構及び溝と上野国分僧寺・尼寺中間地域で見つかった両側側溝を持つ道路状遺構を一連のものとすると、その間において同様の遺構がなぜ見つからないのか疑問が生じる。各調査の遺構検出レベルを確認する必要がある。

- 道路状遺構ラインの延長線上では、道路状遺構の存在を想定せずに調査を行い、気がつかなかった可能性もある。道路状遺構のラインの角度と走行を基準に国府城の全体や条里制地割りを見ると、調査の手がかりを掴めるかもしれない。

- 「日高道」を国府の政府の前から南に延びる大路とすれば、政府の前では道というよりも広場になり、道路状遺構は無いと思われる。道路状遺構の途切れる部分が大切である。

- 古代の王宮が廃絶しても、宮殿があった場所を横断するような道路は一部の例外を除いて造られたことはない。天皇が使った大切な空間ということで、跡地管理がなされており、この考え方は地方の官衙にもあてはまると思われる。

- 今年度の元総社小学校校庭における調査で掘立柱建物としている遺構について、柱穴のところ

にある丸石は、掘立柱の礎盤に相当するとは考えられないか。建て替えられたから、石が2個あるということではないか。

- 「日高道」、尼寺僧寺の位置関係、調査で見つかった集落の変遷など、国府関連遺構をどこまで確認できているか、それに基づき何がわかつたのか、総体的に整理してほしい。

- 委員会の資料について、区画整理事業の図面を基に調査区位置図を作成しているが、そういう要素を除いた国府調査の成果を重点に置いた図面が必要である。蒼海遺跡群の調査と上野国府の調査とで地図を分けずに、一体のものが欲しい。

- 遺構の中で時期を確實に押さえられるのは住居跡と思われる。住居跡の時期を徹底的に確定して、奈良・平安時代、特に6・7世紀の住居を時期別に色分けしていくと、集落域の空白エリアが見つかる可能性があり、肝心の国府域の手がかりになる。



協議風景

あとがき

前橋市文化財保護課が平成29年度に実施した事業の概要をここに記しました。

われわれの業務は、文化財を調査し、文化の継承を支援し、守るべき文化をつがなく後世に伝え残してゆくことですが、毎年刊行しているこの年報の編集作業は、この1年で積み上げてきたものを改めて顧みる機会となります。

達成感、反省、感謝、様々な感慨が湧き上がります。

次はどのような思いで1年を振り返ることになるでしょうか。充足感をもって次号が刊行できるよう、精一杯業務に取り組んで参りたいと思っております。

平成30年3月31日

文化財保護課長 田中 隆夫

平成29年度

前橋市文化財調査委員

(敬称略・氏名五十音順)

大森 威宏

岡田 昭二

能登 健

右島 和夫

村田 敏一

文化財保護課職員

文化財保護課長

田中 隆夫

文化財保護課専門員

小島 純一

文化財保護係

係長

登山 伸一

副主幹

大澤 範之

"

大野 裕史

"

江黒 啓一

"

吉田 和夫

"

小川 卓也

主任

齊藤 直樹

"

本館 美保

"

宮川 親妃

嘱託員

前原 豊

埋蔵文化財係

埋蔵文化財係長

神宮 智

副主幹

岩丸 展久

"

並木 史人

"

小峰 篤

主任

福島 浩樹

主任

高山 剛

"

渡辺 亮介

"

阿久澤智和

"

寺内 勝彦

嘱託員

村越 純子

年報 第48集 平成29年度文化財調査報告書

平成31年3月発行

発行 前橋市教育委員会事務局 文化財保護課

前橋市総社町三丁目11-4

表紙 山王庵寺出土塑像群（神将像）